



公益社団法人日本環境教育フォーラム

清里ミーティング2025

(通算39回目)

「自然にふれるよろこびを、すべての人に。」

報告書

日 時：2025年12月5日（金）～7日（日）＜2泊3日＞

会 場：公益財団法人キープ協会 清泉寮、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

主 催：公益社団法人日本環境教育フォーラム

現地開催事務局：公益財団法人キープ協会

後 援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、独立行政法人国立青少年教育振興機構、

ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター、

2030生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）、

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）、

一般社団法人日本環境教育学会

協 賛：株式会社サンエー印刷

サントリーホールディングス株式会社

公益財団法人SOMPO環境財団

SOMPOホールディングス株式会社

瀧本株式会社

日能研

株式会社みくに出版

参加者数：102名

目 次

開催趣意	1
スケジュール	2
開会式	5
全体会	6
1日目 全体会1：インクルーシブな自然体験のあり方	6
2日目 全体会2：“ふしぎ”とともに生きる—センス・オブ・ワンダーで編む学びと暮らし	10
ポスターセッション	15
参加者企画ワークショップ	17
閉会式	23
その他の企画	24
清里ミーティングこれまでの実績	27

開催趣意

清里ミーティングは、1987年9月、自然体験・野外教育・環境教育に関心を寄せる人たちが山梨県清里に集まり「第1回清里フォーラム」を開いたことからスタートした。毎年、自然学校等の環境団体、企業、行政、教育機関等から約200名の関係者が参加し、環境教育に関心のある人たちの交流の場として30年以上続いてきた。

環境分野以外の多様なステークホルダーとの協働も目指し、広く「持続可能な社会に貢献するひとづくりに携わる人たちの学び合いの場」として、多様性とパートナーシップによって環境問題・社会課題解決のヒントを探る。2018年には、「平成30年度持続可能な社会づくり活動表彰」（主催：公益社団法人環境生活文化機構）にて環境大臣賞を受賞した。

■ 清里ミーティングの目的

1. 最先端の情報や手法を学ぶ場を提供し、参加者の活動をエンパワメントする。
2. 参加者同士のネットワークを構築し、協働を促進する。
3. 1、2をもって持続可能な社会に向けて行動する人を増やす。

2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）に向け、環境教育だけではなく、他分野とのパートナーシップがより重要となっている。清里ミーティングも環境教育以外のより広い分野からの参加者を募り、新しいコラボレーションが生まれることをねらっている。お互いの活動を理解し、認め合い、共に考え、力を合わせていける場の基盤づくりを目的としている。

■ 今年の特徴

自然・環境に関わる人々のバイブルともいえる書籍、『センス・オブ・ワンダー』がアメリカで出版されてから今年で60年。自然体験で育まれる感性の重要性は時代を超えてもなお変わることはない。しかし、身体的、経済的、地域的など、さまざまな理由から自然の中に出かけていくことが難しい人たちがいることも確かである。今年の清里ミーティングでは、近年徐々に広がりつつある多様な参加者のニーズに応えた、背景の異なる人々が共に過ごせるユニバーサルでインクルーシブな自然体験活動の取り組みに注目し、誰もが当たり前自然体験活動に参加できる未来に向けて、世代や立場を超えた仲間と集い、語り、学び合う3日間となった。



スケジュール

日程：2025年12月5日（金）～7日（日）＜2泊3日＞

会場：公益財団法人キープ協会 清泉寮、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

参加費：（2泊3日）JEEF会員 40,000円、一般 45,000円、学生 35,000円

※会員からの紹介割引（3,000円）あり。

主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム（Japan Environmental Education Forum：以下、JEEF）

現地開催事務局：公益財団法人キープ協会

■ タイムスケジュール

清里ミーティング2025タイムテーブル			
	時間	所要時間	プログラム
12/5 (金)	11:15	0:30	初めましての方におすすめ！さきどり交流会
	12:00	1:00	受付開始
	13:00	0:05	開会挨拶
	13:05	0:25	オリエンテーション（スケジュール説明、注意事項、スタッフ紹介）
	13:30	2:00	全体会1：インクルーシブな自然体験のあり方 <ファシリテーター> 原田 順一さん(株式会社Think & Camp代表取締役) <ゲスト> 石神 愛梨さん(NPO法人くすの木自然館 重富ユニバーサルビーチPJリーダー) 佐々木 健一郎さん(公益財団法人そらぶちキッズキャンプ 事務局長)
	15:30	1:00	チェックイン ※本部は期間中「新館ホール前」に設置しています。 八ヶ岳自然ふれあいセンターは16:00で閉館となります。
	16:30	0:30	ポスターセッション発表準備 ※ポスターセッション発表者は集合してください。
	17:00	1:00	ポスターセッション ※受付でお配りしたファイルにフィードバックシートが入っています。 発表者へのフィードバックをお書きください。 5枚フィードバックを書いた方は事務局まで。プレゼントと交換します！
	18:00	1:00	交流の時間（自由参加） ※全体会のこと、環境教育のこと、テーマごとにおしゃべりしましょう♪ ※WS実施者は担当スタッフとの顔合わせ&会場確認があります。 ※この時間にお風呂に入るのもOKです！
	19:00	1:00	夕食（19:00～20:00）
	20:00	2:30	情報交換会 ・バー開店♪（ホール内）※飲み物購入式 ・コンシェルジュデスク&リクルートコーナー（ホール内） ・ショップ「ちえの木の実」（ホール内） ・絵本×探究ブース～ELMSセンターpresents～（ホール内） ・ダルマの絵付け体験（ホール内）※1日目のみ ・20:30 安西理事による星空観察会！（アンデレホール）※1日目のみ ・21:00 ワークショップの参加エントリー最終締切（本部） ・本部は22:00でCLOSEします。
	22:30		1日目終了 ※まだ喋りたい！そんな方は二次会@ハンターホールへ。 ※清泉寮新館の大浴場は23:00まで（23:30クローズ）

12/6 (土)	7:00	1:00	<p>早朝ワークショップ (7:00~8:00)</p> <p>I)清里朝さんぽ(野外)@本館ロータリー ポールラッシュ像前</p> <p>II)渡り鳥に出会おう!(野外)@アンデレホール</p> <p>III)環境をからだで味わおう</p> <p>~朝の清里をからだで感じるストレッチ~(室内)@本館ホール</p>
	7:30	1:30	朝食 (7:30~9:00)
	9:30	2:00	<p>ワークショップ (5枠)</p> <p>①アメリカの国立公園について語ろう(室内)</p> <p>②知っておきたい生物多様性の基礎、基本(野外あり)</p> <p>③あなたの発見 おしえてください in 清里(野外あり)</p> <p>④自分とみらいをつなぐワークショップ(室内)</p> <p>⑤インクルーシブな学びと遊びの場「星の寺子屋」にオンライン参加してみよう(室内)</p>
	11:30	0:40	片付け、移動
	12:10	1:20	<p><オプション企画> 清里満喫ショートトリップ</p> <p>●環境省・黒部室長と語る、環境教育の今座談会 12:10 本館ホール集合</p> <p>●牧場見学コース 12:10 本館ロータリー集合</p> <p>●ヤマネミュージアム見学コース 12:35 八ヶ岳自然ふれあいセンター前集合 ※入館料が別途かかります。</p> <p>●のんびりそれぞれの時間(新館ホールは自由に使えます)</p>
	13:30	2:00	<p>ワークショップ (5枠)</p> <p>⑥KP法超入門、そして自然の中でもKP法(室内)</p> <p>⑦トヨタが挑む、サステナビリティの“自分ごと化” — 行動変容を生む社員研修を考える(室内)</p> <p>⑧歴史・文化を伝える手法「リビングヒストリー」(野外あり)</p> <p>⑨SPIREモデルで体験する幸福学ワークショップ(室内)</p> <p>⑩「あわい」にひらく センス・オブ・ワンダー /ただ感じることで一なにが起ころ? (野外あり)</p>
	15:30	0:30	休憩・移動
16:00	2:00	<p>全体会2:“ふしぎ”とともに生きる—センス・オブ・ワンダーで編む学びと暮らし</p> <p><ファシリテーター> 松岡 美緒さん(NPO法人みつけ 代表理事)</p> <p><ゲスト> 上遠 岳彦さん(国際基督教大学 非常勤講師) 山北 美由紀さん(福音館書店「ちいさなかがくのとも」編集長)</p>	
18:00	1:00	<p>休憩</p> <p>※この時間にお風呂に入るのもOKです</p>	
12/6 (土)	19:00	1:00	夕食 (19:00~20:00)
	20:00	2:30	情報交換会
	22:30		<p>2日目終了</p> <p>※まだ喋りたい! そんな方は二次会@ハンターホールへ。</p> <p>※清泉寮新館の大浴場は23:00まで(23:30クローズ)</p>
12/7 (日)	7:30	1:30	朝食 (7:30~9:00)
	9:00	0:30	<p>チェックアウト</p> <p>※大きな荷物は新館フロント前でお預かりします。</p> <p>※鍵は開けたままご退出ください。鍵は本部または新館フロントで回収します。</p>
	9:30	2:00	<p>ワークショップ (3枠)</p> <p>⑪インタープリテーション全体計画を作ろう!(室内)</p> <p>⑫地域の資源を次の形に~栄光の竹箸作り~(室内)</p> <p>⑬半歩、未来を考えるおうち自然学校(室内)</p>
	11:30	0:30	片付け・移動
	12:00	0:30	閉会挨拶
	12:30		<p>終了</p> <p>※残って交流したい方には、少しでもドリンクとお茶請けをご用意しています♪</p> <p>※<オプション企画>清泉寮自然学校ツアー 12:30~13:30</p> <p>(帰りのバス・電車移動)</p> <p>清泉寮発13:40⇒清里駅着13:50⇒清里駅発14:02</p> <p>※1本前:清泉寮発12:25⇒清里駅着12:35⇒清里駅発12:54</p>

■ 会場図



開会式

司 会 : 公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF) 垂水恵美子
主催者挨拶 : 公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF) 理事長 阿部 治

JEEF 理事長・阿部治より主催者挨拶。今年は半数以上の参加者が初参加であることにふれ、清里ミーティングが約 40 年前に日本型環境教育をつくろうとこの地に人々が集ったことではじまったという歴史や、当時の参加者の想いについて語った。また、今この時代だからこそ環境教育の必要性は増しており、3 日間で参加者同士が意見交換を重ねる場の意義について述べた。



司会より JEEF 理事・監事、スタッフ (JEEF、キープ協会、学生ボランティア)、3 日間のスケジュールを紹介。配布資料や注意事項などを説明した。また、参加者の属性 (年代、地域、初参加者、ワークショップ実施者やポスターセッション発表者等) についても紹介した。

1日目と2日目に2回ある「全体会」では、全体テーマである『自然にふれるよろこびを、すべての人に。』について話題提供を受け、参加者全員で考え、意見交換を行った。

1日目 全体会1：インクルーシブな自然体験のあり方

登壇者：

石神 愛梨さん（NPO 法人くすの木自然館 重富ユニバーサルビーチプロジェクトリーダー）

佐々木 健一郎さん（公益財団法人そらぷちキッズキャンプ 執行理事/事務局長）

ファシリテーター：

原田 順一さん（株式会社 Think & Camp 代表取締役）

全体会1では、身体的、経済的、地域的などのさまざまな理由から自然とふれたり、人とふれあったりするのがむずかしい子どもたちとともにインクルーシブな自然体験活動に取り組まれているゲストから、場づくりの工夫や課題についてお話しいただいた。

（ファシリテーター原田さん活動紹介）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

原田氏は全体会1のファシリテーターであり、自身も誰ひとり取り残さない環境教育を実践しているひとりである。

民間自然学校での20年間の勤務を経て、2023年4月に独立した。「アウトドアを全ての子どもたち」というミッションを掲げ、子ども向けに週末のイベントや、夏休み・冬休みのキャンプを行っている。なかでも特徴的な活動が、経済的困窮家庭やひとり親家庭の支援である。経済的困窮家庭の支援では、東京のある支援団体のコーディネーターとして、年間に子どもたちが使える10万円分のクーポンを配布し、体験と子どもたちを繋げている。また、ひとり親家庭支援の一環として参加費の割引制度や、昼食の持参が不要のキャンププログラムを実施している。他にも、事務局長を務める日本アウトドアネットワークでは、ひとり親家庭支援を4年間行ってきた。これは寄付金を財源に各家庭・団体に対して、一人あたり日帰り5,000円、宿泊1万5,000円の支援をし、なるべくひとり親の方々が経済的負担を少なくキャンプに参加できるような取り組みである。4年間で約400名の子どもたちに支援をした。

(石神さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

鹿児島県が拠点の NPO 法人くすの木自然館でユニバーサルビーチ企画を担当している。私は先天性両肘関節以上欠損のため、食事や書字、車の運転や、小学校4年生の娘の子育ても生活のほぼすべてのことを足で行っている。

子ども時代は鹿児島県内の小さな田舎で育った。小さい頃の遊び場は川や山。自然体験はいつでもできる身近なものだった。しかし、自分が親になると、娘には「海に近づいたらダメだよ」と言って育てた。娘にも生まれつきの障がいがあり、義足で生活している。海に入ると義足が錆びてしまうことから、娘のやりたいことをやらせてあげられなかった。娘と一緒に海に入りたかったけれど、自分には手がないから娘を抱っこして入ることはできなかった。

くすの木自然館 代表の浜本麦さんに相談をしたところ、障がい者も健常者も、誰もが海を楽しめる取り組み「ユニバーサルビーチ」の存在を知った。今は運営側だが、最初は体験者だった。

娘が人生で初めて海に入ったのは7歳の時。その時、娘はとても楽しんで「来年も入りたい」と言っていたけれど、自分の本音としては「楽しかったけれど、1回でもういいや」と思った。というのも、海に入るまでの準備にたくさんの課題があったのだ。例えば、更衣室はトイレとシャワー室を兼ねた場所で、トイレの床に座らないと着替えもシャワーもできなかった。そのような課題を浜本さんに伝えたところ、一緒にユニバーサルビーチの運営をすることになった。当事者である自分と、環境教育分野の浜本さん、両方の目線を掛け合わせて、誰でも安心安全に楽しめる海岸を作りたいと活動がはじまった。体験に来るのは、大人、子ども、年齢を問わず様々だ。活動を続けるとユニバーサルビーチだけでなく、聾学校の学生との川の生きもの観察会など、様々な自然体験を実施するようになった。

大切にしているのは、障がいに関わらずやりたいことをできる方法を一緒に考えること。障がいがあると危ないと思われがちだが、どんな自然体験にもリスクマネジメントは必要である。障がいや病気があっても、懸念事項が少し増えるだけなのだ。その人のやりたいの気持ちに寄り添い、安心安全に自然の中で思いっきり遊ぶことで、その場所を大事にしたい、また来たい、壊されたくないと思うようになる。そういう思いをいろんな人に感じてもらうのが大事ではないか。また、「とりあえず話を聞かせて」というのも大事にしている。60代の娘さんが80代のおばあちゃんを海に連れて行きたいと連絡が来たことがあった。その日はちょうど潮が引き、海には入れなかったが、砂浜用の車椅子に乗れば干潟には行けることを提案した。このように、その人のやりたい思いと、こちらが何を提供できるかをすり合わせる事が大切だと思っている。

こういった活動をしていても、インクルーシブなことをやっているという感覚はあまりない。娘を育て、自分が生きていく過程で、こういう場所があったら嬉しかったなというのを集めたら、それにインクルーシブという名前が付いたような感覚だ。

施設・設備などの物理的なハードルはなかなか変えられない。しかし、心のハードルを下げることはしやすい。よく、くすの木自然館のスタッフにも言うことがある。私たちのところに障がい者が来ると想定しているのか、そういう方々は来ないと思っているのかで全く違う、と。例えば、私が体験したいと来た時に、「手がない人が来た、どうしよう」という雰囲気になるよりも、「どこまでできるかわからないけれど一緒に考えましょう」と前向きな回答があったら、私たちはそれだけで生きやすくなる。

(佐々木さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

公益財団法人そらぷちキッズキャンプの執行理事/事務局長を務めている。そらぷちキッズキャンプは、難病の子どもの医療ケア付きキャンプ場。施設群があり、小児科医や看護師の管理のもと衛生的で安全にキャンプが楽しめる。税金・補助金・助成金を使わずに、寄付とボランティアだけで運営されているのも大きな特徴のひとつだ。参加費は無料で、全国各地から子どもたちを招待している。

日本では約 20 万人の難病の子どもたちが闘病生活を送っていて、たくさんの制限はあるが、病院ではなかなかできない自然体験や環境教育を、全く 0 の状態から 1 の経験にしたいという思いでキャンプを実施している。自分に明日があるのかと日々考えている状態で、家族と一緒に生活することも、学校に行くことも、友達と遊ぶことも難しい闘病生活を送っている子どもたちも、このキャンプ場にやって来る。お母さん・お父さんがバラバラに付き添いをして、家に残されているきょうだいは小児病棟に入れられない状態である。そんな様々なストレスに対して、自然体験やキャンプが休息やリフレッシュ、明日を生きるエネルギーになるというのを信じている。自分もともと公園や病院の庭を企画設計する仕事をしていたこともあり、外で遊ぶことが夢だという闘病中の子どもたちがいることを知って、何かしなければと思った。子どもの当たり前欲求がなかなか叶えられないとすれば、それを大人が頑張れば外遊びができる場所を創り出すことができるのだとすれば、諦めずにやっていきたいと思う。

2000 年代に入って、小児医療者たちの思い、公園づくりの専門家たちの思い、両者の動きが重なって医療ケア付きキャンプ場ができた。多くの方から数億円の寄付が集まり、国内で大きく動き出した。とはいえ施設だけをつくっても仕方がなく、ホスピタリティやスタッフの心構えをこの 20 年間でつくってきた。

この医療ケア付キャンプ場で 3 泊 4 日を過ごす、その経験が一生の思い出になる。仲間がいるんだ、一人じゃないんだと思うことが、彼らにとって大きなエネルギーになる。これまでに 1,500 人を超える子どもと家族を受け入れてきた。企業、団体、個人からの寄付は建設費を含めて 8 億円を超えた。常設のキャンプ場には年間を通して、子どもだけが参加するキャンプ、家族単位で参加するキャンプなど様々な種類のキャンプが開催されている。キャンプ中の食事でも大切な経験のひとつで、ミキサー食やきざみ食でも家族一緒にの食事が取れるよう、管理栄養士の資格を持つ専門のボランティアに入ってもらい、自前で食事提供をしている。

このような医療ケア付キャンプ場はもともとアメリカからはじまった。重い症状のお子さんから、また、時間に限りがあるお子さんから呼び出すようにしている。日本は税金でまかなわれている保険制度や福祉制度が充実しているが、医療ケア付キャンプ場のような取り組みは制度のすき間に埋もれてしまう。それをチャリティによって財源を確保するかたちがようやく日本でもできるようになってきている。当たり前になってきている。寄付集めはもちろん病院の中だけではできないので、全国のドラッグストアに募金箱をおいたり、応援商品をつくってくれるメーカーも多数ある。

医療ケア付キャンプ場に招待するだけではなく、北海道の雪を冷凍で送って病院内で雪遊び体験の機会を提供したり、水耕栽培の機会を提供したりもしている。これまでやってこなかった 0 の経験が 1 になれば、次はもう増えていくだけ。子どもたちにとっても、親御さんたちにとっても救いにもなり、明日へのエネルギーにもなるような、そんなキャンプ場を創っていきたい。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

登壇者からの話題提供のあとは、参加者同士の「ぺちゃくちゃタイム」を行った。4~5人ずつ近くの席で集まり、感想や意見交換をすることで、他の視点に気づき、自身の考えが整理された。それぞれが自身の活動や研究と結びつけ、これからの3日間でどう落とし込むかを考えるスタートとなった。



2日目 全体会2：“ふしぎ”とともに生きる—センス・オブ・ワンダーで編む学びと暮らし

登壇者：

上遠恵子さん（翻訳家、エッセイスト）

上遠 岳彦さん（国際基督教大学 非常勤講師）

山北 美由紀さん（福音館書店「ちいさなかがくのとも」編集長）

ファシリテーター：

松岡 美緒さん（NPO 法人みつけ 代表理事）

冒頭では、環境省環境教育推進室の黒部室長より、ご挨拶ならびに環境教育の最新動向について解説をいただいた。



全体会2は2日目、早朝・午前・午後のワークショップ後の時間での開催となった。

『センス・オブ・ワンダー』の発刊から今年で60年。いま改めて子どもたちに伝えたい、育みたい“感性”とはどのようなものか。これまで、そして今も「センス・オブ・ワンダー」と共にあるゲストとともに考えた。

当日は上遠岳彦さんの叔母であり、『センス・オブ・ワンダー』（レイチェル・カーソン著）の翻訳家である上遠恵子さんの参加が叶い、急遽登壇していただくこととなった。計4名の登壇者からボリュームのある話題提供がされた。

(上遠恵子さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

平和でなければ絶対に自然は守れないし、子どもたちの教育はできないと考えている。世の中はいまおかしくなっていると思う。若い方たち、皆さんが平和に向けたアンテナを張り巡らせてほしい。

わたしは今年で 96 歳になった。戦争中は腹ペコで、学校では英語を学ぶのをやめさせられて、中 3 の時には兵器をつくる工場に行かされる、そういう青春を送った。本当に平和であることを祈っている。今の子どもたちはなかなか自然にふれていない。昔は退屈すると外に出て木登りをしたり、アリンコを見たり、色々なことをした。今はゲームをして、みんな外に出ていない。

レイチェル・カーソンはちょうど私の母親の年代くらい。カーソンのお母さんは学校の先生をしていた。自然の中にカーソンを連れて行って、自然ってこんなに美しいんだよ、みんなこう関わって生きているんだよということを、本当に体験として教えてくれた。今、ピッツバーグから 30km ほど離れた郊外の住宅地（かつては田園地帯だった場所）に生家が残っているが、そんなところで育った。それがやっぱり彼女の『沈黙の春』の下地になっていると思う。彼女が『センス・オブ・ワンダー』を書きかけた時に『沈黙の春』を書いてくれという要求があったが、彼女は『センス・オブ・ワンダー』を、もっともっと大きな本にしたいと願っていた。そして 57 歳の時、とうとうこの本を彼女自身の手でも出版することはできずに、癌で亡くなってしまった。それでも彼女の友達がこの本をなんとか世に出したいと出版された。

カーソンはこの本を、まずは子どもたちに向けて書いていた。けれど、大人だってセンス・オブ・ワンダーを持たなければだめだ。ある時、虫の幼虫をみてキャーと金切り声をあげた母親をみかけた。これから皆さん親になろうと、また既に親になっている方もいるでしょう。孫がいる方もいるでしょう。けれども、どうぞ、そういう子どもを育てないで。そういう気持ちにならないで。泥が汚いなんて言う親にならないで欲しいと私は思っている。

(上遠岳彦さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

叔母である上遠恵子さんの翻訳の手伝いもしていたが、私自身は国際基督教大学で昨年まで生物学・生態学の教員をしていた。主に大学生や、生涯学習のコースを持って社会人教育もしていた。リタイアしてからは、地元の子ども会で数カ月に一度、生きもの観察会をやっている。研究ではアナグマを中心とした生態学が専門で、2014 年には NHK の「ダーウィンが来た」にも出演した。

大学の授業では「自分で観察してそこに問いを見つけて欲しい」といつも言っていた。生きもの名前を 1 個 1 個覚えるのは、大学生としては必要なことではあるが、それが一番大事なのではなく、どうしてこの昆虫はこう動いているんだろう、どうしてこんな色なんだろう、と何かを見つけ出してほしい。そんな生態系の理解をもとにして、自然の営みを感じる感性が養われていくと感じている。

では、どんなことで子どもたち・大学生に「疑問」を持ってもらえるか。

例えば、植物は自分で動けないから、種をどうにかして遠くにばらまきたい。鳥が一口で食べられるような木の実が目立って、人間にもきれいに見えて、臭いがあまりしない。そして実際に食べてみるとまずいことがわかる。アレルギー等で難しいところはあるが、木の実があったらちょっと口に入れてみてほしい。(おいしいけれど毒のものもあるので、最後は飲み込まずに出してほしい。) そんなことをしてみると、鳥に運んでもらいたい木の実はだいたいまずく、哺乳類に運んでもらいたいものは美味しいことがわかる。そんな風に、色々な木の実を見て、きれいな花の花粉は誰が運ぶんだろうとか、そんな生きもの同士の関わりを一緒に見ながら、その感性を育ててほしい。

「生物多様性」について、「全ての生き物が自分らしく生きていく」ということがとても大切だと思う。生きものが生きている・生きていけるのは、地上 5,000m から地下 5,000m ぐらいまで。ほとんどの生きものが 10km の範囲で生きている。考えていただきたいのは、この 10km が地球の中でどのぐらいかということ。図をみると、

こんな非常に薄っぺらなところに我々、そしてすべての生きものが住んでいるとわかる。だから、この中で CO₂ をガンガン出したり、隕石が空から落ちてきたりしたら、あっという間に壊れてしまうというのは実感を持てるのではないかな。

次に、これは哺乳類の重さを絵で表している画像で、これを見ると家畜（ほとんどは牛）が 60%、人間は 36%、野生動物のゾウやサイ、クジラなどの巨大な哺乳類を全部合わせてもわずか 4%、である。なんと 96%が人間と、人間のために飼われている家畜であるのだ（2018 年のデータに基づく）。このような世界に今、人間は生きていて、人間がそんな世界にしてしまったのだ。

一方で、このような話ばかりであるとセンス・オブ・ワンダーから離れてしまいがちで、気分も落ちていく。子どもたちには「自分のことを棚上げしてでも、希望を持ちつづけてほしい」と言っている。普通に暮らしていて私たちにはできないことがたくさんある。環境にやさしい行動をしようとまじめに突き詰めてしまうと「人間なんか、私なんかいないほうがいいんじゃないか」と思ってしまう「エコ不安症」が世界中に広がっている。

そんな時、自分の一人の努力ではできないことに対しては、自分が悪いのではなく、社会が悪いんだと考えてみてはどうか。ちょっと無責任ではあるが、自分を棚上げしてでも、希望を持とうよと言っている。ゆっくりと進むことで見えてくることもある。その時々でやるべきことをしていけばよい。できることは決まってくるもので、やるべきことに追われる時期はある。その中でただ受け入れ、無心になる時間を持つということをしたい。

自分は生後まもなく祖父母と上遠恵子（叔母であり戸籍上は母）に育てられてきた。父は昆虫学者だった。自分が小学生の頃から叔母がレイチェル・カーソンの翻訳に関わるようになり、通訳兼ボディガードとしてカーソンの別荘や生家を訪ねたこともある。翻訳では生物関係のチェックなどを手伝っていた。

自分も叔母も、実は祖母に育てられている。祖母は田舎生まれで、自然に対する感性があった。本人は虫が苦手であったが、私が虫を触ったり持ってきたりしても、決して汚い、怖い、駄目などとは言わず、全部受け入れてくれた。子どもたちの感性を大事に、大事に、子どもたちの感性のままに受け止めてあげる育て方というのを、上遠恵子も私も、祖母からしてもらっていたのだと思う。

(山北さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

福音館書店という児童書の出版社で、「ちいさなかがくのとも」という 3 歳～5 歳向けの絵本を出版・編集している。24 ページの月刊絵本で、毎月 1 冊 1 テーマ、つまり年間で 12 のテーマに子どもたちが出会えるようにしている。4 歳の子は、風に舞うおちばを見て、「あ、葉っぱがダンスしてる」と言ったり、餌を運ぶアリをみんなで声を上げて応援してあげたり、石ころにも葉っぱにも心があると感じられるような子どもたちだ。そんな瑞々しい感性を持った子どもたちに寄り添えるのはどんな絵本なのだろうか。知識の押し付けにならない絵本ということを非常に慎重に考えながら 1 冊 1 冊編集している。

ここで創刊号『からだのなかで ドウン ドウン ドウン』を会場の皆さんにも読み聞かせたい。この絵本は、一般的な科学の絵本というイメージとは一致しないかもしれない。動物の体の構造が紹介されているわけでもなければ、心臓のメカニズムが出てくるわけでもなく、そもそも心臓という言葉も出てきてない。そういう何かの知識を与えてくれる絵本ではない。当時の担当編集者が聞かせてくれたエピソードを紹介する。この絵本を担当編集者が保育園で読み聞かせをした時、読み終わった後に編集者の前に子どもたちがずらーっと列を作って並んだそうだ。子どもたちはなんと、その編集者に自分の心臓の音を聞いてほしかったのだ。編集者はびっくりしながらも、一人一人の音を聴いて、「こんな音がしているよ」「すごく素敵な音がしているね」と話しかけると、子どもたちはすごく誇らしげな顔をして戻っていったそうだ。このように小さな子にとっては、心臓や体の構造を知ることよりも、自分の中にその音があるんだと感じる、確かめることの方がずっと嬉しいんだなということ、そのエピソードは教えてくれている。

私たちが絵本を通じて幼い子どもたちに届けたいのは、科学の知識とか疑問に対する答えではなくて、科学の

中にある感動そのものなのだ。絵本を読んで、本当に自分の体の中で音がしているの？と心が動いたら、好奇心旺盛な子どもたちは自分でどんどん行動してくれる。だから、科学絵本の役割は、子どもに何か教え込むことではなくて、まずは見てみたい、やってみたいという気持ちになってもらうため、「ここに面白いものがあるよ」とそっと手招きするようなことだと考えている。絵本はあくまでそのきっかけづくりで、あとは実体験から子どもの世界が広がっていく。

絵本が子どもの先回りをせず、子ども自身の体験を後押しするものであるためには、まず子どもたちがどんな世界を見ているのかを知る必要がある。そのために大切なのが「100cmの世界」だ。4歳の平均身長は大体100cm、大人がしゃがむとちょうどこの高さになる。作家の方々も編集者も、絵本を作る時はしゃがんで子どもの目の高さになり、何を絵本にするか、どんなふうに描いていくかを考えていく。

上遠恵子さんは「センス・オブ・ワンダー」という言葉を「神秘さや不思議さに目をみはる感性」と訳されている。科学絵本はそんな感性に満ちあふれている子どもたちに向けて、「この世界にはこんなに素敵なものがあるんだよ、こんなに面白いものがあるんだよ」と伝えていくものだと思っている。絵本を通じて、身の回りの気になる存在が増え、愛着を感じるものが増えていったら、「好き」に囲まれたその子の毎日が出来上がる。その子の周りにいる大人の毎日よりも心ときめくようなものになっていくと信じている。「この世界は生きるに値するところだよ」と伝わっていったらと願っている。

(ファシリテーター松岡さん活動紹介)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「森の学校みつけ」という小学生対象のオルタナティブスクールを運営している。もともと国際協力の仕事をしていたが、ある日、人の命を助けようとしているのに、自分の命がどのように作られているかを知らないと気づいた。水がどこから来ていて、野菜をどうやって作るのか、そういうことを知らなかった。そこからパーマカルチャー、循環型の暮らしのデザイン手法を学び、食べることを通して学ぶ食カリキュラムをカリフォルニアに学びに行ったりした。

6年前に徳島県神山町に引っ越して今の活動をはじめた。団体の掲げるビジョンは、「子どもと地球の美しい未来」。子どもたちが30歳になって、これやりたいってやっとわかった時に、あれ？地球がちょっと違う感じでやりたいことができないぞ、という未来にしたくない、そんな思いでやっている。現場で大切にしているのは、まず感じること。感じて、今自分がどう感じているのか、不快だな、好きだなとわかること。次に知ること。相手はこう思っているんだ、コミュニティはこう感じているんだ、知ること。それが好きでも嫌いでも、共に生きていくとはどういうふうにすればいいんだろうというのを話し合う。カリキュラムは①自分とつながる、②人とつながる、③命(食べ物)とつながる、④地域とつながる、⑤地球とつながる、の5つ。学校というと山村留学や放課後教室と勘違いされやすいが、それとは異なる。1年生から6年生までの子どもたち23人が週5日、月曜日から金曜日の朝から夕方3時まで登校して下校する。テストや教科書はないので、全て体験学習で教科横断型の学びをしている。ここで子どもたちは、今日は何をする？と話し合ったり、マルシェに出店し、自分たちで稼いで旅に出る計画をしたりする。活動の中で、これは原価何円なんだろう、いくらで売ったらどこに行けるんだろうと話す。野外キッチンでは、釣れたカニや魚でご飯を作ったりする。このようにみつけは、いろんな挑戦ができる場所になっている。挑戦してたくさん感じ、楽しんだ後で、次の地球のリズムのことを考えていたり、今起きていることを考える。そんなチャンスがあることが大事だと思う。

このような学校は日本全国で500校以上ある。私たち特有であるのは循環システムがデザインされているということ。コンポストトイレや化石エネルギーに頼らずに水をきれいにする仕組みなど、毎日の暮らし自体に学びが溢れている。先に新しく知識として入れるのではなく、日々当たり前にやっていることの結果を感じ、それが知識として後で積み上がってくることが本当に大事だと思う。



ポスターセッション

ポスターセッションは参加者が自身の活動報告、提案、事例紹介等を行う場である。3枚の板状ダンボール（さんかくん）で三角柱を作り、側面にそれぞれ発表者がポスター等を貼り、時間内で発表する。28組の参加者が発表し、聞き手側の参加者と意見交換が活発にされた。発表後には「さんかくん」を黙想館に貼り出した。



ポスターセッション発表者一覧

No	発表者	所属	タイトル
1	原 采子	札幌市定山溪児童会館	生き物と五感でふれあい”まちづくり”に繋げる『定山溪こどもかわまちづくりプロジェクト』
2	佐藤和明	環白神エコツーリズム推進協議会	白神山地の現状と取り組み【連携先募集中】
3	富田 俊幸	開智国際大学	釧路湿原における高校生のスタディツアー
4	中村 香子	NPO法人 鎌倉広町の森市民の会	地域密着型の環境教育をめざして
5	小林 真理子	森の知恵共創共同事業体	岐阜県立森林文化アカデミー付属施設 森林総合教育センター(morinos)ってどんなところ？
6	馬場 絢子	八郷留学(茨城県石岡市)	里山の暮らしで教育価値を生み出す八郷留学の挑戦
7	松岡 美緒	NPO法人みつけ	毎日の暮らしから学ぶ森の学校みつけ「地球の守り人たちの未来」
8	石神 愛梨 浜本 麦	NPO法人くすの木自然館	重富ユニバーサルビーチプロジェクト～誰もが訪れる海岸へ～
9	鹿谷 麻夕	しかたに自然案内 / あーまんシアター	Tシャツすごろくの作り方
10	牧田 和紗 鹿谷 麻夕	海辺の環境教育フォーラム 2025in南房総実行委員会	海辺の環境教育フォーラム2025in南房総実行委員会 学校へ行こう！～海の学びを教室へ～
11	八木澤 潮音	海あそび舎	海と人をつなぐ場づくり 海あそび舎3年間の歩みとこれから
12	金子 潤	一般社団法人ミチヅクリ	はだし感覚でひらく「共生と再生」 — 人間と大地のつながりを取り戻す実践活動—
13	河野 千佳世	一般財団法人女神の森 ライフスタイル研究所	人と地球の健康をつなぐ「プラネタリーヘルスライフ検定」
14	鈴木 律子	ぐらいいん屋	「やまなしみんなでプラネタリウム」に参画しよー！
15	菅山リンダ 明美	株式会社ハッピーエンジン	インパクトコーディネーター発足(させるぞ)
16	石川 陽子	フューチャーアーティザン 株式会社	企業が教育現場へ赴く理由とその先
17	古本 敦子	NPO法人 ひろしま自然学校	自然共生サイト認定と生物多様性学習の試み
18	伴 美佳	グリーンフロント研究所 株式会社	あなたのフィールドを未来へつなぐ —自然共生サイトという新しい形
19	茂木 紀夫	一般社団法人 東アジア環境教育研究所	日中韓環境教育ワークショップ
20	増田 由香子	一般社団法人日本インター プリテーション協会	日米インタープリテーション研修の歴史
21	西村 仁志	広島修道大学 /一般社団法人日本インター プリテーション協会	日本における「インタープリテーション全体計画」策定の動向
22	中山 洋子	ジオカル/洞爺湖有珠山ジオ パーク認定ガイド	大地と人をつなぐストーリー作り
23	奥村 康祐	センテナリー大学	幸せとはなにか？
24	坂川 実基 岡野 由美 山下 美夏	公益財団法人キープ協会 環境教育事業部	人はどんなときに“育つ”のか？ ～キープ協会環境教育事業部の現場から～
25	清泉寮自然学校		清泉寮自然学校について
26	佐藤 翔太郎	国際自然環境アウトドア 専門学校	効果が見える!? 多様な専門分野のZ世代7,000人に“半アウトドア研修”を！
27	福原 英信	早稲田大学大学院	身近な自然体験活動で子どもはどう育つ？
28	木村 佳葉	ELMSセンター	「考える楽しさ」を、すべての子へ！ ～多様な背景をもつ子どもたちとの、探究ワークショップ実践報告

参加者企画ワークショップ

参加者自身が企画・実施者となる「参加者企画ワークショップ」を計 16 本実施した。実施者でない参加者は自身の興味・目的に合わせて参加プログラムを選択し、各ワークショップで参加者同士の活発な意見交換が行われた。実施されたワークショップと内容紹介は以下の通り。(実施者敬称略)

実施枠	タイトル	実施者	会場
〈12/6〉 早朝 7:00 ～8:00	I 清里朝さんぽ	キープ協会	本館ロータリー
	II 渡り鳥に出会おう！	安西 英明	D アンデレホール
	III 環境をからだで味わおう ～朝の清里をからだで感じるストレッチ～	増田 泰子	B 本館ホール
〈12/6〉 9:30 ～ 11:30	① アメリカの国立公園について語ろう	古瀬 浩史 増田 由香子 黒田 希咲	A 新館ホール
	② 知っておきたい生物多様性の基礎、基本	安西 英明	D アンデレホール
	③ あなたの発見おしえてください in 清里	林 浩二	E ハケ岳自然ふれあい センターホール
	④ 自分とみらいをつなぐワークショップ	菅山リンダ 明美	C ハンターホール
	⑤ インクルーシブな学びと遊びの場「星の 寺子屋」にオンライン参加してみよう	鈴木 律子	B 本館ホール
〈12/6〉 13:30 ～ 15:30	⑥ KP法超入門、そして自然の中でもKP法	川嶋 直 武石 泉	A 新館ホール
	⑦ トヨタが挑む、サステナビリティの“自分 ごと化” — 行動変容を生む社員研修を 考える	鳥山 奈生子 山田 俊行	E ハケ岳自然ふれあい センターホール
	⑧ 歴史・文化を伝える手法 「リビングヒストリー」	村井 孝一 山下 美夏	D アンデレホール
	⑨ SPIREモデルで体験する 幸福学ワークショップ	奥村 康祐	C ハンターホール
〈12/7〉 9:30 ～ 11:30	⑩ 「あわい」にひらく センス・オブ・ワンダー /ただ感じることで一なにが起こる？	増田 泰子 杉山 有香音	B 本館ホール
	⑪ インタープリテーション全体計画を 作ろう！	西村 仁志 古瀬 浩史 川嶋 直	B 本館ホール
	⑫ 地域の資源を次の形に ～栄光の竹箸作り～	齊藤 隼人	D アンデレホール
	⑬ 半歩、未来を考えるおうち自然学校	谷口 哲郎 鈴木 律子	A 新館ホール

12月6日（土）7：00～8：00（早朝ワークショップ）

◆環境をからだで味わおう ～朝の清里をからだで感じるストレッチ～

朝の静けさの中で、身体と心をやさしく目覚めさせる60分のボディワーククラスです。深い呼吸で内側をひらき、眠っていた感覚を少しずつ呼び覚まします。筋肉をただ伸ばすのではなく、“感じる”ことを大切に。重力に委ね、足の裏や背骨のひとつひとつに意識を向けながら、からだの内側に風が通るような軽やかさを取り戻します。清里の朝の始まりを、静けさと透明な感覚の中で迎えてみませんか。

実施者：増田 泰子（BeAct）



◆渡り鳥に出会おう！

少し寒いかもしれませんが、冬も元気な野鳥を観察して、元気をもらいましょう。ロシアから飛来した冬鳥にも出会えるはずです。

実施者：安西 英明（公益財団法人日本野鳥の会）



◆清里朝さんぽ

八ヶ岳ブルーの青空の下、朝日に包まれながらキープ協会のレンジャーとお散歩します。清里の自然と朝の澄んだ空気で、ゆっくり朝を過ごしましょう。

実施者：公益財団法人キープ協会 環境教育事業部



12月6日（土）9：30～11：30

◆アメリカの国立公園について語ろう

世界で最初の国立公園が創られ、インタープリテーションが発展し、ユネスコ世界遺産システムのモデルにもなったとされるアメリカの国立公園。なんでもアメリカをモデルにするのが良いというわけでないことは言うまでもありませんが、今もなお先進性やたくさんの魅力もっていることもまた事実です。このワークショップでは、最近国立公園を見てきた若手や、長年アメリカの国立公園に通う「国立公園GEEK（おたく）」がそれぞれフレッシュな視点、ベテランの観点から話題提供します。参加者との質疑応答や意見交換を通じて、これからの国立公園を考えます。

【実施者】古瀬 浩史（一般社団法人日本インタープリテーション協会／帝京科学大学）、増田 由香子（一般社団法人日本インタープリテーション協会）、黒田 希咲（公益財団法人キープ協会）



◆知っておきたい生物多様性の基礎、基本

そもそも生物とは？命とは？多様性とは？ネイチャーポジティブの基本「生物多様性って何？」を学ぶ時間です。野外の生きもの観察と座学から、基礎・基本の知識を共有します。

【実施者】安西 英明（公益財団法人日本野鳥の会）



◆あなたの発見 おしえてください in 清里

清里であなたが「発見」したことを写真1枚と短い説明文で応募いただきます。バーチャルな解説板に仕上げ、参加者による「発見マップ」をオンラインで共有します。ミーティング参加者のみなさんにもご覧いただきます。インタープリテーション活動への市民参加と、自然の情報共有の一つの形を体験できます。

【実施者】林 浩二（NPO 法人市民科学研究室）



◆自分とみらいをつなぐワークショップ

ミーティングに参加されている方はみなさん、環境教育、地球環境、SDGs など様々な活動をされていると思います。私もそうなのですが、最近しみじみ思うのです。私は、未来と自分をちゃんとつなげることができているのだろうか。今の私、私の活動が未来にどうつながっているのか、私は未来につながるように行動しているのだろうか。同じような思いを抱いておられる方がいらっしゃったら、一緒に考えてみませんか。考えていく手法はご用意します。ご興味あればぜひご参加ください。

【実施者】菅山 リンダ 明美（株式会社ハッピーエンジン）



◆インクルーシブな学びと遊びの場「星の寺子屋」にオンライン参加してみよう

一般社団法人「星つむぎの村」が毎月2回行っている「星の寺子屋」。なんとラッキーなことにちょうど12/6は開催日に当たります。清里ミーティング中の私たちもオンライン参加してみましよう。ハンデのあるなしを越えて、みんなでつくる時間です。当日は朝の会（個々の近況報告）、12月のお誕生日会（その子の生まれた夜の空をプラネタリウムで再現して、星空観察と手話歌）、清里の森で冬さがし…を予定しています。オンラインでもできる限り自然体験を取り入れる工夫を続けているのも、「星の寺子屋」の特徴のひとつ。住んでいる場所やコンディションはみんな違うけど、同じ空の下、つながりを感じあつてともに生きる喜びを感じる、穏やかであたたかくて、胸に染みるひとときです。前後に実施者からの「星の寺子屋って？」の解説や、みなさんで感想をシェアする時間もあります。ご参加をお待ちしています。

【実施者】鈴木 律子（星つむぎの村（ぐらいん屋））



12月6日(土) 13:30~15:30

◆KP法超入門、そして自然の中でもKP法

KP法(紙芝居プレゼンテーション法)は、紙とマーカーそして話し手で作り出す、超アナログなプレゼンテーション手法です。シンプルに削ぎ落とされた手書き文字のKPシートをホワイトボードに貼りながら語りかける、アナログならではの味わいと力強さがあるのです。

今回はKPが全く初めての方にも分かりやすく体験していただきます。さらに「KP法を自然の中で使う」にはどんな方法があるのか?皆さんと知恵を集めてその可能性を探っていきましょう!KP法に初めて触れる方から、場づくりやKP使い(?)のベテランの方まで大歓迎です。



【実施者】川嶋 直(川嶋直事務所/JEEF)、武石泉(日能研)

◆トヨタが挑む、サステナビリティの“自分ごと化” — 行動変容を生む社員研修を考える

トヨタ自動車では、社員一人ひとりが「サステナビリティを自分ごととして捉える」ことに挑む研修に取り組んでいます。自然体験や対話を取り入れ、カーボンテーマに森と人の関わりを見つめ直しながら、サステナビリティを考える体感型プログラムを通じて、行動変容を促す学びのデザインを探ってきました。

本ワークショップでは、その実践を共有するとともに、今後この取り組みを他企業や他領域へどのように広げていけるかを、参加者の皆さまと共に検討します。皆さまの現場での知見やアイデアを交えながら、企業におけるサステナビリティ人材育成の新たな可能性を共に描きましょう。



【実施者】山田 俊行(トヨタ白川郷自然学校)

◆歴史・文化を伝える手法「リビングヒストリー」

リビングヒストリーとは、いわゆる「なりきりガイド」。地域の魅力の掘り起こしとして、歴史・文化を伝える手法の一つです。今回は「清里の父」と呼ばれるポールラッシュ博士の足跡を、キープ協会のレンジャーがポールさんに扮してガイドを実施。また、質疑応答や意図開きの時間も設け、ノウハウ面もお伝えします。通常のガイドとは異なる、「私」という一人称が持つ言葉のチカラをお伝えできればと思います。

【実施者】村井 孝一、山下 美夏(公益財団法人キープ協会 環境教育事業部)



◆SPIRE モデルで体験する幸福学ワークショップ

米国で最新の幸福学（SPIRE モデル）を学び、「誰もが幸福を実感できる社会を作りたい」という想いから、その知見を広めています。本ワークショップでは、SPIRE モデルを用いて幸福学を体験的に学び、日常生活はもちろん、教育現場や地域・環境での活動にも活かせるヒントを一緒に探していきます。科学的根拠に基づきながらも親しみやすい雰囲気で行いますので、どなたでも安心してご参加いただけます。



【実施者】奥村 康祐（センテナリー大学）

◆「あわい」にひらく センス・オブ・ワンダー/ただ感じることで一なにが起こる？

からだと山伏の「あわい」を生きる増田泰子と、森とデジタルの「あわい」を生きる杉山有香音で担当するワークショップです。日々の慌ただしさを離れ、感じる力を静かに取り戻す時間。

前半では、「センス・オブ・ワンダー」に通ずる“あわいの身体感覚”について山伏の身体感覚を織り交ぜながらお話しします。続いて、呼吸を整え、身体をゆるめるボディワークで感覚をひらき、森の中へ。風や光、木々の気配に身をゆだね、言葉にならない世界と自分との境（あわい）に触れてみましょう。思考を離れ、感覚がひらかれていくそのとき、あなたの中でなにが起こるのでしょうか。感じることに会う穏やかな時間です。



【実施者】増田 泰子（BeAct）、杉山 有香音

12月7日（日）9：30～11：30

◆インタープリテーション全体計画を作ろう！

「インタープリテーション」は、来訪者に自然や文化の魅力を伝え、満足度を高める活動です。地域資源の価値や意味、そこに込められたメッセージやストーリーを整理し、それをもとにガイドプログラムや展示、印刷物、メディア発信などを総合的にデザインするのが「インタープリテーション全体計画」です。近年は、国立公園や文化遺産地域に限らず、観光地以外の地域でも計画づくりが進み、JEEF も各地でその支援を行っています。今回のワークショップでは、その意義や効果、策定の基本的な流れについて、レクチャーとワークを通して理解を深めます。



【実施者】西村 仁志（一般社団法人日本インタープリテーション協会／広島修道大学）、古瀬 浩史（一般社団法人日本インタープリテーション協会／帝京科学大学）、川嶋 直（川嶋直事務所／JEEF）

◆地域の資源を次の形に～栄光の竹箸作り～

昔から私たちの生活に身近な存在だった竹製品。しかし安価なプラスチック製品に置き換わり、大量生産大量消費が繰り返されてきました。使われなくなった竹は、放置竹林として各地で問題となっています。持続可能な暮らしが求められる現在、成長が早い竹は持続可能な資源として再び注目を集めています。

今回は竹箸作りに加え、竹の魅力現在の暮らしに繋げるアイデアを皆さんと一緒に広げていきます。

【実施者】 齊藤 隼人（彩り日和）



◆半歩、未来を考えるおうち自然学校

人生は、学生から社会人へ、独身から結婚・子育てへ、そして子育て期からセカンドライフへと、年齢、世帯構成（独身・夫婦・子育て世帯）、経験するライフイベントによって区分されます。こうしたライフステージの影響は、自然との共生を目指す「自然学校」においても少なからずの影響を及ぼします。

今回は、参加者一人ひとりの現在のライフステージ、またはこれから迎えるステージに合わせ、日常と自然が溶け合う新しい集いの場「おうち自然学校」を通して、「暮らしと自然」「子育てと学び」「地域との関わり」などをテーマに、実践例を交えながら、参加者全員で半歩先の未来の姿を具体的に考えます。このワークショップは、具体的な「行動」につながるアイデアと、それを共に支え合う「仲間」を見つける場となることを目指します。

【実施者】 谷口 哲郎（つがる野自然学校）、鈴木 律子（ぐらいん屋）



閉会式

最後は新館ホールで閉会の挨拶を行い、清里ミーティング 2025 は終了した。

閉会後もレストランで最後の時間を惜しむ参加者の様子がみられた。参加された皆様がそれぞれ得たものを持ち帰り、新しい発展に今後つながっていくことを期待したい。

清里ミーティングはこれからも継続して、環境教育等に関心のある方たちにとって有益な学びの場・交流の場をつくっていく。



その他の企画

参加者同士の交流を促すために、下記を行った。

◆参加者専用ページの開設

清里ミーティングのウェブサイト内に、参加者のみが閲覧できる専用ページを開設した。ページには参加者リスト（プロフィール集）、参加の事前資料、ワークショップや送迎バスの参加エントリーフォームなどを掲載した。

また、プロフィールは会期中・終了後も順次更新し、開催後には全体会ゲストの登壇資料もアップロードした。

プロフィール集はオンラインプロフィールページ「Proff」のサービスを使い、参加者が各自で情報を登録。URLを事務局にお知らせ頂き、参加者の間でのみ「一覧」を閲覧できるかたちで配信した。

Proff ページサンプル



◆さきどり交流会

主に初参加で不安を抱える方のために、開始前に参加者同士が交流する時間を設ける「さきどり交流会」を復活した。参加者同士の緊張がほぐれ、楽しそうな様子が見られた。



◆オプションツアー企画

2日目午前と午後のワークショップの間の昼食は少し長めにとった。ワークショップのふりかえりをゆっくりする人。お土産を見に、あるいは名物のソフトクリームを食べに行く人。前日の夜遅くまで交流していたので少し休憩している人。参加者は各々、好きに時間を使っていた。

さらにオプション企画として、「牧場見学コース」と「やまねミュージアム見学コース」、「環境省・黒部室長と語る、環境教育の今座談会」の3本を実施した。



◆インフォメーションコーナー

新館ホール内にチラシ置き場を設置し、事務局や参加者が持ち寄ったチラシや資料を自由に配布した。

◆協賛団体ブース

清里ミーティングへご協賛いただいた企業・団体様の紹介ブースを本館ホール内に設置した。協賛団体は開会式で紹介。ブースには会期中、空き時間などを利用して参加者が資料を閲覧する様子が見られた。



◆情報交換会

1日目、2日目ともに夕食の後は新館ホールで情報交換会を開催した。参加者からの差し入れや、キープ協会がバーを開店し、飲み物を販売。参加者は思い思いに交流した。人を紹介する「コンシェルジュデスク」や「リクルートコーナー」、日能研のショップ「ちえの木の实」、ELMS センターブース、だるまの絵付け体験ブースを出店。参加者はプログラムに使える絵本などを興味深げに見ていた。途中、安西英明氏（JEEF 理事）による星空観察会も実施した。

情報交換会終了後。二次会はハンターホールに会場を移し、夜遅くまで熱い議論と交流が活発に行われた。



清里ミーティングこれまでの実績

第1回清里フォーラム

- 日時：1987年9月28日(月)～29日(火)
- 参加人数：93人
- 主催：清里フォーラム実行委員会
- 【分科会】①環境教育について(考え方とその論理)
②自然観察の中に今後とりにこんでいきたいもの
③指導者とボランティアの養成を今後どうするか
④施設運営とコーディネーターの在り方について
⑤自然観察の有料化について
⑥清里フォーラムの将来性・方向性について
- ゲスト：加藤幸子(小池しげんの子)

第2回清里環境教育フォーラム

- 日時：1988年11月13日(日)～15日(火)
- 参加人数：151人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会/(財)日本環境協会
- 後援：環境庁/山梨県
- 【分科会】
前半 ①学校と環境教育 後半 ①地域・開発と環境教育
②地域社会と環境教育 ②施設と環境教育
③施設と環境教育 ③人づくりと環境教育
④自然観察と環境教育 ④市民・行政・企業・学校の協力
⑤企業と環境教育 ⑤環境教育の目的と方法
⑥学校と環境教育
⑦企業と環境教育
- ゲスト：ロバート・ピナウィーズ(元ヨセミテ国立公園管理事務所長)

第3回清里環境教育フォーラム

- 日時：1989年11月12日(日)～14日(火)
- 参加人数：168人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会/(財)日本環境協会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①小中高における環境教育カリキュラム
②若い世代に楽しいプログラムとは
③環境教育をうまく経営していくためには
④環境教育の場でボランティアが活躍できるためには
⑤環境教育で村おこしができるか
⑥大学における環境教育
- ゲスト：ジェームス・サノ(元マリン・ディスカバリーズ専務理事)

第4回清里環境教育フォーラム

- 日時：1990年11月18日(日)～20日(火)
- 参加人数：163人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会/(財)日本環境協会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①学校教育 ②事業化
③プログラム ④人づくり
⑤施設 ⑥地域開発・村おこし
- ※この年4月より上記6つの研究部会が発足。
- ゲスト：ジョセフ・コーネル(ネイチャーゲーム考案者)

第5回清里環境教育フォーラム

- 日時：1991年11月17日(日)～19日(火)
- 参加人数：187人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①学校 ②事業化 ③プログラム
④人づくり ⑤施設 ⑥地域社会
- ゲスト：ステイブ・メドレー(ヨセミテ・アソシエーション会長)
- ※1992年9月 任意団体 日本環境教育フォーラム発足
※1992年7月 「日本型環境教育の提案」発刊

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング'92(通算6回)

- 日時：1992年9月19日(土)～21日(月)
- 参加人数：132人
- 主催：日本環境教育フォーラム設立準備会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【紹介WS】①エコツアー報告・ヨセミテ自然学校
②New School of Conservationにおける環境教育
③ペンギンリザード活動報告
④国際理解教育・資料情報センター活動紹介
⑤フィールドミュージアムごっこ
⑥環境教育国際セミナーに参加して
⑦成城学園における「散歩」「遊び」
- 【体験WS】①さあ、みんなでやってみよう！開発教育シミュレーション
②エコロジーキャンプつみぐいハイク
③ネイチャーゲーム入門
④もしフィールドでけがをしたら
⑤PLTプログラムの紹介
- 【分科会】①学校での環境教育
②地域に根ざした環境教育
③エコツーリズムの可能性とその問題点
④環境教育のプログラム教材開発
⑤指導者養成について
⑥エコマネジメントのしかた

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング'93(通算7回)

- 日時：1993年11月14日(日)～16日(火)

- 参加人数：154人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【体験PRG】①ネイチャーゲーム ②死の準備教育の試み
③マインドクロッキー④パートナーシップへの挑戦
⑤究極の自然観察会 ⑥たずね鳥をさがせ
- 【分科会】①プログラム ②施設 ③学校
④人づくり ⑤企業 ⑥地域・自治体
⑦エコツーリズム ⑧海外の国立公園情報
- ゲスト：アン・ロベッタ(ストーリーテラー)

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング'94(通算8回)

- 日時：1994年11月27日(日)～29日(火)
- 参加人数：167人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【体験PRG】①ネイチャーゲーム ②ファイブ・トリック
③森の宝箱をつくろう ④地球救出作戦
⑤枯れ木に花を咲かせましょう ⑥清里・冬物語
- 【分科会】①企業 ②エコツーリズム ③都市環境教育 ④ネイチャー
トレイル ⑤自然学校
⑥ネイチャーライティング ⑦フォーラム塾
- ゲスト：ジョン・エルダー(ミドルベリー大学英語学・環境学教授)

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング'95(通算9回)

- 日時：1995年11月25日(土)～27日(月)
- 参加人数：185人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①自然学校としての施設づくり②行政・自然学校
③自然学校の経営を考える ④自然学校の人材育成
⑤自然学校のプログラム
- 【WS】①写真で環境教育 ②あなたにとって出会いとは何ですか
③環境教育を企画・プロデュースする
④ソフトクリーム姉ちゃんをねええ！
⑤未知なる可能性を求めて
⑥キープ・フォレストーズ・スクールでのプログラム体験
⑦ネイチャーゲーム、アジアと環境教育
⑧独特な日本人に有効な環境教育戦略は？
⑨アース・アート ⑩メディアワークショップ

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング'96(通算10回)

- 日時：1996年11月16日(土)～18日(月)
- 参加人数：174人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①自然学校の「事業化」
②自然学校でのプログラム
③地域振興と環境教育
④環境保全活動がそのまま環境教育
⑤エコツーリズムの様々な可能性
⑥JEEFの法人化など今後の可能性
- 【ワークショップ】
①ネイチャーゲーム入門講座
②ネイチャーエクスポアリング
③清里での川の環境教育を考える
④「子供であそぼう」についての御紹介
⑤元気がでる自然観察
⑥環境教育の本質を考える
⑦環境教育を企画・プロデュースする
⑧清里で「海の環境教育」を考えよう
⑨自然をテーマにしたスライドショー
⑩自分への気づきとNGO
⑪清里インターネット通信社へようこそ
⑫森だくさんの自然体験
⑬まちを遊ぼう
⑭未知なる可能性を求めて
⑮エコビレッジを作る
⑯アクティビティの「バクリとアレンジャローカライズ」

※1997年4月
環境庁主管の法人格を取得、社団法人日本環境教育フォーラム設立

(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング'97(通算11回)

- 日時：1997年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：170人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①環境教育の指導者養成
②環境教育の新しいプログラム開発
③環境教育とまちづくり
④環境教育の情報の発掘と提供
⑤企業や行政とどのように組むのか？
⑥新しい交流集会のスタイル
- 【WS】①ネイチャーゲーム入門講座
②自然と心・心とひとのコミュニケーション
③環境教育の服装計画を考える
④出たとこ勝負の自然観察会+人間ウォッチング
⑤環境教育を企画プロデュースする
⑥環境教育と経営と税金
⑦インターネットライブサインをつくろう
⑧ディーブエコロジー・ミニワークショップ

- ⑨フィリピン流！演劇ワークショップのすすめ
- ⑩安全管理チェックリストをつくってみよう
- ⑪ネイチャーエクスポアリングコースづくり
- ⑫水辺でさがすいろいろなつながら
- ⑬アクティビティと小道具
- ⑭キープの自然体験プログラム
- ⑮博物館をつくらう！
- ⑯野外における企業研修の実際とその可能性

(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング'98(通算12回)

- 日時：1998年11月14日(土)～16日(月)
- 参加人数：176人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁/文部省/林野庁/山梨県
- 【分科会】
 - ①公共事業における環境教育の役割
 - ②森林・里山における環境教育と地域振興
 - ③アメリカの環境教育プログラムの日本への導入
 - ④動物と関わる環境教育
 - ⑤日本型エコツーリズムについて
 - ⑥メディアと環境、その先にあるもの
- 【ワークショップ】
 - ①環境教育個人商店を考える
 - ②私のきもち、みんなのきもち、地球のきもち
 - ③21世紀のインターネットアプリケーションを求めて
 - ④おきらく やまんばの部屋
 - ⑤プロジェクトワイルド「水生生物」に学ぶ
 - ⑥エコマネーのすすめ
 - ⑦もし参加者が野外でケガをしたら
 - ⑧ネイチャーエクスポアリング
 - ⑨エコスピリチュアルワークの試み
 - ⑩アクティビティ大賞実施編・体験編
 - ⑪これまでの50年とこれからの50年
 - ⑫川を設計してみよう
 - ⑬「おもい」を「かたち」にはじめる一歩
 - ⑭自然学校でめしが喰えるか

(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング'99(通算13回)

- テーマ：「学ぶ心・育つ力」
- 日時：1999年11月13日(土)～15日(月)
- 参加人数：185人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁/文部省/林野庁/山梨県
- 【分科会】
 - ①自然学校の運営を考える
 - ②「総合的な学習の時間」で学校と地域をつなぐ
 - ③都市型の生活環境をテーマにした遊び場づくり
 - ④森から見つめる川と海
 - ⑤エコツーリズム一歩前へ
 - ⑥見つめよう地域の里山、伝えよう里山の魅力
 - ⑦チルデンを越えろ！
 - ⑧教育を考える
- 【早朝WS】
 - ①カラスのきもち
 - ②朝のディーツタイム
 - ③きもちとキモチをつないだら
 - ④五感で感じよう清里の自然
 - ⑤オカリナ・ハナリナ体験教室

(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング2000(通算14回)

- テーマ：「原点を見つめよう」
- 日時：2000年11月11日(土)～20日(月)
- 参加人数：171人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁/文部省/林野庁/山梨県
- 【体験PRG】
 - ①野外での救急法を覚えよう
 - ②ネイチャーウォッチング in 清里
 - ③清里の晩秋を味わうキープ流自然体験
 - ④心と体で感じよう！ネイチャーゲームが案内する清里の自然
 - ⑤竹を使ったものづくり
 - ⑥羊の毛から糸つむぎ教室
 - ⑦自分という自然に出会う
 - ⑧Frog (カエル)
 - ⑨プロジェクト・アドベンチャー
- 【分科会】
 - ①自然体験活動における体験学習法
 - ②ゆったり楽しむ ノスタルジックワーク
 - ③虫を知る・入門
 - ④「センス・オブ・ワンダー」って何だ？
 - ⑤学校ピオトープの可能性
 - ⑥五感を使って楽しみながら自然探検
 - ⑦環境教育とスピリチュアリティ
 - ⑧企業・行政マン向け環境教育テキスト作り
 - ⑨自然学校のPR活動を考える
 - ⑩Out of Treasure Boxes
 - ⑪民話・ことわざから考える日本人と川の関係
 - ⑫エコツーリズムのビジネスネットワークを考える
 - ⑬表現を楽しもう！「シアターゲーム」
- 【早朝WS】
 - ①野遊び手遊び発見隊
 - ②センス・オブ・ワンダーの体験
 - ③地球と私の合作づくり「1枚の葉」
 - ④見て、聴いて、感じて…朝の森でネイチャーゲーム
 - ⑤早朝ジョギングワークショップ

- ⑥キモチときもちをつないだら
- スライドプレゼンテーション
- JEEF 理事による3分トーク

(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング2001(通算15回)

- 日時：2001年11月17日(土)～19日(月)
- 参加人数：192人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/農林水産省/林野庁/山梨県
- 【体験PRG】
 - ①清里の晩秋を味わうキープ流自然体験
 - ②初心者歓迎！清里の自然をネイチャーゲームで楽しもう
 - ③秋の味覚を楽しもう！
 - ④「ほっ♪」となるたき火講座
 - ⑤身体感覚講座
 - ⑥The Bear (ひぐまの生き方、暮らし方)
 - ⑦プロジェクト・アドベンチャー
 - ⑧やまねミュージアムへ行こう
- 【分科会】
 - ①総合的な学習の教材として「拾ったもの(生きものに関連するもの)」を活用する
 - ②「いまだき」の子ども・「いまだき」の親 改造計画！
 - ③博覧会を環境教育という視点から評価する
 - ④ゆったり過ごすやまねば流ネイチャーワーク
 - ⑤ワークショップという新しい学び方をめぐって
 - ⑥朝からイキナリ！若者で語ろう！の会
 - ⑦小さな子どものための環境教育の“技”をさぐる
 - ⑧地域の昔話を中心にした環境教育
 - ⑨農業と林業を語ろう！農業者と林業者と語る環境教育
 - ⑩Environmental Education in English
 - ⑪北九州博、きらら博で行われた環境教育プログラムはこれだ！
 - ⑫テロ・戦争に関してわかちあう
 - ⑬環境教育基礎講座
 - ⑭GEMSの体験プログラム
 - ⑮自然学校で働くこと
 - ⑯センス・オブ・ワンダー
 - ⑰ネイチャーエクスポアリングライトの体験と総合的な学習の時間に活かせる活動事例
 - ⑱田んぼから生まれる日本型環境教育
- 【早朝WS】
 - ①センス・オブ・ワンダーを楽しむ
 - ②早朝ジョギングワークショップ
 - ③スライドプレゼンテーション
 - 参加者による3分トーク「ここが変だよ！環境教育」

(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング2002(通算16回)

- テーマ：「胎動」
- 日時：2002年11月16日(土)～18日(月)
- 参加人数：182人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/国土交通省/林野庁/山梨県
- 環境教育ミニレクチャー
- ヨハネスブルグ・サミット報告
- 参加者による3分トーク「環境教育 次のキーワードはこれ!？」
- 【ワークショップ】
 - ①地域通貨ってなんだろう？
 - ②折り紙を使った環境教育の試み(3)
 - ③幼稚園、保育園に環境教育を導入しよう
 - ④環境問題、エコロジカルアートからの試み
 - ⑤環境教育指導者と研究者、カリキュラム開発者のつながりを作ろう
 - ⑥体験主義を超えて…プロジェクト・ワイルドの世界
 - ⑦「自然の中で働く男性はオバチャン度が高い??」を証明したい!!
 - ⑧未来へ、世界へ、感動をどうつなぐのか
 - ⑨ひよこのキモチ
 - ⑩モアイは何を見たか
 - ⑪Environmental Education in English
 - ⑫持続可能な開発と環境教育
 - ⑬森の交響サイン計画づくり
 - ⑭サロンの語り場
- 【早朝WS】
 - ①早朝ジョギングワークショップ
 - ②清里ミニガイドツアーA
 - ③清里ミニガイドツアーB
 - ④モンゴル茶で朝を迎えよう
 - ⑤清里ミニガイドツアーC
- スライドプレゼンテーション

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング2003(通算17回)

- キーワード：持続可能な開発のための教育
- 日時：2003年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：208人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/国土交通省/林野庁/山梨県
- 【全体会】
 - ・科学と環境教育をつなぐミーティング(前夜祭)の報告
 - ・環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律
 - ・持続可能な開発のための教育(ESD)
 - ・スライド&トーク オロロニの日々
- 【WS&体験PRG】
 - ①ワラっていいとも

- ②社会教育ゲーム体験プログラム 投資意志決定ゲーム Chemical
- ③参加型オンラインデータベースを使った「つながる」体験活動の試み/AM
- ④総合学習へのNPO 参画が期待されているけど、実現が難しいのは何故?
- ⑤エコ・ネイションゲーム
- ⑥忙しい!!! けど前向きに レベルアップシートを作ろう
- ⑦科学するココロを育てよう!
- ⑧参加型オンラインデータベースを使った「つながる」体験活動の試み/PM
- ⑨野生生物教育の現状と課題
- ⑩フォーラム企業部会をリセットして、今後の方向性を考えよう!
- ⑪「持続可能な人」づくり
- ⑫開府 400 年! 江戸町民の循環型社会から学ぶごみ減量大作戦
- ⑬どうなる? どうする? 日本環境教育フォーラムの未来
- ⑭子育てという環境
- ⑮地方発! 食農発信!
- ⑯環境教育の中の行政の役割を考えよう!
- 【早朝 WS】
- ①センス・オブ・ワンダー
- ②清里ミニガイドツアー 富士山とせせらぎの小径コース
- ③清里ミニガイドツアー ぬしの木コース
- スライドプレゼンテーション

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2004(通算 18 回)

- キーワード:「持続可能な開発のための教育の 10 年」夜明け前
- 日時: 2004 年 11 月 13 日(土)~15 日(月)
- 参加人数: 187 人
- 主催: 社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管: 財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力: 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援: 環境省/文部科学省/国土交通省/林野庁/山梨県
- 【全体会】
- ・「持続可能な開発のための教育の 10 年」夜明け前
- ・「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」を考える

【WS&体験 PRG】

- ①エコトリズムという生き方
- ②科学と環境教育
- ③地場産小麦でパンをつくらう!
- ④環境立国 エコ・ネイションゲーム
- ⑤「センス・オブ・ワンダーからグリーンコンシューマーへ」
~第 1 回清里「エコ商品コンテスト」~
- ⑥持続可能な地域づくりにつながるネイチャーゲーム体験
- ⑦体験学習への扉をひらく(午前の部)
- ⑧自然学校の動きと人材養成
- ⑨環境教育 in 国際協力 最前線!
- ⑩環境教育基礎講座「環境教育と自然体験」
- ⑪酵母を育てて、パンを作ろう!
~酵母が教えてくれる、命、自然とのつながり~
- ⑫石器時代に接近! モノはこうして作る ~シエラカップ~
- ⑬いのちを伝える自然体験
~自分流健康な生きかたを学ぶ~
- ⑭ボードゲーム型の環境教育プログラム
- ⑮体験学習への扉をひらく(午後の部)
- ⑯「1 億円のプロジェクト」

【特別ワークショップ】

バーム油のはなし ~開発教育入門講座~

【早朝 WS】

- ①早朝ジョギングワークショップ
- ②センス・オブ・ワンダーって、こんなに楽しく気持ちいい
- ③清里ミニガイドツアー ぬしの木コース
- スライドプレゼンテーション・5 分で伝えるメッセージスライド
- JEEF 公開理事対談

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2005(通算 19 回)

- キーワード:「自然を舞台にした環境教育は、持続可能な社会作りに具体的にどのような役に立ってきたのか」
- 日時: 2005 年 11 月 19 日(土)~21 日(月)
- 参加人数: 221 人
- 主催: 社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管: 財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力: 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援: 環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会: 基調講演、5 分間スピーチ、パネルディスカッション
- 【WS&体験 PRG】
- ①環境教育基礎講座(午前の部)
- ②自然学校って何だ?
- ③学校教育と環境教育
- ④ボードゲーム型の環境教育プログラム
- ⑤ひとりひとりの感性で自然を感じとろう
~ネイチャーゲームでのんびりぶらぶら~
- ⑥セルフガイドシートを使用した、短時間、多人数対象プログラムの検証 ~セルフガイドシートの評価軸を作ろう~
- ⑦科学ってなんだろ? と考えながら皆で遊ぼう!
~低学年向けの GEMS プログラムを通して~
- ⑧森林療法
- ⑨プロジェクト WE T 体験会(午前の部)
- ⑩環境教育基礎講座(午後の部)
- ⑪自然学校の評価に向けた人材養成
- ⑫小さな町村での自然学校の役割と可能性を探る
- ⑬CSR と環境教育
- ⑭おいしく食べ続けていける社会づくりは、...
- ⑮里山で音楽会
- ⑯樹木年輪から樹の声を聴く方法! ~過去からの環境の変化を辿る~
- ⑰プロジェクト WE T 体験会(午後の部)
- ⑱科学と環境教育 見直そう! あなたのインタープリテーション
~持続可能な社会づくりに自然科学知を活かすために

【早朝 WS】 ①早朝ジョギングワークショップ

- ②座禪&ヨガ
- ③清里ミニガイドツアー
- スライドプレゼンテーション・5 分で伝えるメッセージスライド
- JEEF 活動報告

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2006(通算 20 回)

- 日時: 2006 年 11 月 18 日(土)~20 日(月)
- 参加人数: 224 人
- 主催: 社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管: 財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力: 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援: 環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会「日本の環境教育 この 20 年を振り返る」基調講演
- 学長鼎談「大学と環境教育」
- 【WS&体験 PRG】
- ①自然学校を事業化する
~20 年間に自然学校は何を獲得したのか~
- ②団体・組織におけるリスクマネジメントを考える
- ③あなたにとって食育ってなに?
- ④環境教育基礎講座
- ⑤新型の起業研修を応用したスタッフ研修ゲーム
- ⑥学びとコミュニケーション
~GEMS プログラムの体験を通して~
- ⑦ESD の実践のポイントを探る
~みんなで話せばわかってくる!~
- ⑧森林環境教育のすすめ ~木が好きになるプログラム~
- ⑨50 分プレゼンテーション(午前の部)
- ⑩企業と NPO との協働を考える戦略会議
- ⑪環境教育と ESD(持続可能な開発のための教育)の関係性を探る
- ⑫環境教育と地域づくり
- ⑬環境教育仕事塾
- ⑭行政との連携を考える
- ⑮太鼓で太古に退行するぞ!
- ⑯木から樹を知る方法 ~木材を IP にいかす~
- ⑰セルフガイドで使えるしかけ展示のモデルをつくらう
- ⑱50 分プレゼンテーション(午後の部)
- ⑲自然への感動を生み出し、ライフスタイルの転換を促す
科学的知識の伝え方
- ⑳感性? 科学? どっちのインタープリテーションショー
- 【早朝 WS】 ①早朝ジョギングワークショップ
- ②環境質問 ~答えのない問題~
- ③ロシアからやってきた冬鳥を探してみませんか
- ④清里ミニガイドツアー
- ⑤清泉寮 朝さんぽ
- 環境ショート映像作品上映会
- 今後の戦略会議
- スライドプレゼンテーション

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2007(通算 21 回)

- 日時: 2007 年 11 月 17 日(土)~19 日(月)
- 参加人数: 230 人
- 主催: 社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管: 財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力: 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援: 環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 省庁プレゼンテーション
- 全体会:「生物多様性」基調講演
- ・第 3 次生物多様性国家戦略が目指すもの
- ・企業が取り組む生物多様性保全
- 【ワークショップ】
- ①「生物多様性」の見つけ方・伝え方
~自然体験活動を、生物多様性保護の教育活動に結びつける実際の方法~
- ②行政との協働を考える
- ③学ぶ環境としてのコミュニケーション ~GEMS とゴードンメソッド~
- ④食育コミュニティをつくらう!
- ⑤どこでもインタープリテーション! ~グッズ展開型 IP~
- ⑥関西発! これからは日本的でいいこう! !
- ⑦新型の企業研修を応用したスタッフ研修ゲーム
スピード・ソリューション~自然学校版~
- ⑧企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
- ⑨ツリークライミング? 樹上の世界から学ぶこと
- ⑩50 分プレゼンテーション
- ⑪企業と環境 NPO との協働を進める戦略会議
- ⑫ESD を広める人のための「ESD 入門講座」
- ⑬環境教育基礎講座
- ⑭生物多様性と環境教育について
- ⑮科学と環境教育 自然体験からライフスタイルの転換へ
~ヤマネのプログラム体験を通じて~
- ⑯メディアと自然学校
- ⑰環境経営戦略ゲーム体験会
- ⑱体験型展示物を評価しよう
- ⑲エコトリスト予備軍を探せ・つかめ・そして楽しめ!
- ⑳障害者と共に楽しみ・学ぶ森林環境教育
- ㉑やってみよう!! 体感ツリークライミング㉒の世界
- 【早朝 WS】 ①早朝ジョギングワークショップ
- ②センス・オブ・ワンダーを楽しむ散歩
- ③清里ミニガイドツアー
- 今が旬の活動事例紹介
- スライドプレゼンテーション
- 今後の戦略会議
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2008(通算 22 回)

- 日時：2008年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：192人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会：「日本型環境教育の知恵 出版記念」～日本型環境教育とは～

【ワークショップ】

- ①科学と環境教育 ヤマネに学ぶエコロジカルな暮らし方
- ②生き物との共生について ～どんな共生があるのか～
- ③環境教育&ESDを”広げる×深める”政策を考えよう
- ④お互いの関係を作るコミュニケーションスキル
- ⑤社会人大学院生&興味ある人集まれ!
- ⑥エコとエネをつなぐ環境教育を考える
- ⑦森林環境教育とProject Learning Tree
- ⑧環境教育を評価する「環境教育を棚卸しましょう」
- ⑨企業・NPO・学校の連携による環境教育を考える
- ⑩企業のための環境NPOカタログ編集会議
- ⑪どうする!《限界集落》またの名は《上流社会》
- ⑫科学と環境教育総集編 科学と環境教育の関わりを定義する
- ⑬オオバコずもうで勝つ方法! 理学系研究室の自然体験
- ⑭川遊びのルールを広めよう
- ⑮日本型、日本的を考える ～日本の自然観という視点～
- ⑯地球環境カードゲーム マイアースを遊び尽くす
- ⑰障害者と共につむぐ環境教育の企画をつくる!
- ⑱森づくりのための戦略会議 ～行政・企業・NPOの協働～

【早朝WS】

- ①砂鉄から鉄を作ろう! 柏崎の製鉄遺跡と自然のかかわり
- ②映画「西の魔女が死んだ」 おばあちゃんのお家ツアー
- ③清里の森で宝物発見
- ④ロシアから渡ってきた鳥と会いましょう
- ⑤清里ミニガイドツアー

- 環境教育プレゼンテーション
- 今後の戦略会議
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF理事の何でも相談所

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2009(通算 23 回)

- テーマ：「生物多様性」～環境教育の役割～
- 日時：2009年11月14日(土)～16日(月)
- 参加人数：193人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会

- ・基調講演「生物多様性」とは何か? 行政・企業・NGOから
- ・事例紹介「生物多様性 私はいこう伝える」
- ・全体ディスカッション

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座
- ②多様な生物の声を聴く～全生命の集いワークショップ～
- ③科学的な視点を活かした環境教育のプログラム作り
- ④企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
- ⑤社会人大学院生&興味ある人集まれ! Part2
- ⑥風が吹けば桶屋が儲かる 生物多様性ゲームトライアル
- ⑦バーマカルチャーと環境教育
- ⑧幼児～小2に伝える生物多様性～生物多様性の形を探る～
- ⑨ビジターセンターを運営側から考え創る方法
- ⑩あなたにとって、生物多様性って何?
- ⑪生物多様性に焦点を当てたプロジェクト・ワイルド体験
- ⑫人間界に多様性は確保されているか
- ⑬日本の森林環境教育とProject Learning Tree
- ⑭どうプログラム化しよう? 自然学校の「エネルギー」
- ⑮風が吹けば桶屋が儲かる 生物多様性ゲームトライアル
- ⑯日本的、アジア的自然観を整理し、環境教育に活かす
- ⑰エコとエネをつなぐ環境教育を考える Part2
- ⑱事故防止～注意を促すだけでいいの? 実践的予防安全法
- ⑲トランジションタウンとは何か? 都留での試み

(注) ⑦川遊びを始めよう! ～川の安全管理トレーニング～ は、都合により中止

【早朝WS】

- ①生物多様性を映像で感じよう ～いっしょに生きる道～
- ②映画「西の魔女が死んだ」 おばあちゃんのお家ツアー
- ③ゼロからの火おこし術

- 環境教育プレゼンテーション
- 当日募集ワークショップ
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF理事の何でも相談所

※2010年6月 公益社団法人への移行認定を取得、公益社団法人日本環境教育フォーラムへ。

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2010(通算 24 回)

- テーマ：「いのちをつなぐ環境教育」
- 日時：2010年11月13日(土)～15日(月)
- 参加人数：177人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁

／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

- ・基調講演「生物多様性条約第10回締約国会議の結果」
- ・提案「生物多様性保全に果たすESDの取組について」
- ・提案「What is CEPA??」
- ・取組紹介「環境省におけるESDの取組について」
- ・全体ディスカッション

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座 ※
- ②日本の自然観から考える環境教育
- ③農的暮らしの学校
- ④自然感を耕す：人は心を、畑は土を、森はデザイン感を
- ⑤生物多様性まんだらカードゲーム体験会
- ⑥生物多様性条約のCEPAって何だ?
- ⑦企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
- ⑧エコとエネをつなぐ環境教育を考える Part3
- ⑨「サステナビリティ」の基本はこれだ! ※
- ⑩これだけは知っておきたい! 生物多様性の基礎知識 ※
- ⑪生物多様性を普及する環境教育を目指して
- ⑫森を考える～木質バイオマスで100年先の森づくり～
- ⑬大学生のための食育プログラム
- ⑭命をいただく～ワトリと生きる～
- ⑮エコロジカル・シンキングゲーム
- ⑯「地球交響曲第7番」を見て、みんなで語ろう!
- ⑰イナカとこどもと日本の未来を考える
- ⑱企業の行なう自然体験活動と地域のつながりを考える

※の印は、主催者企画ワークショップ

(注) ⑨海外での環境教育(保全)活動を日本でどう伝えていくかは、都合により中止

【早朝WS】

- ①バードコールハイク
- ②多様性を感じる観察会
- ③ゼロからの火おこし術
- ④朝飯前の手仕事
- ⑤朝日をあびつつ、ミルクティー飲んでごあいさつ
- ⑥生き方を学ぶ自然観察
- ⑦ノルディックウォークで早朝散歩
- ⑧映画「西の魔女が死んだ」 おばあちゃんのお家ツアー
- ⑨みみをすませば～みんなでつくるいのちのものがたり～

- 環境教育プレゼンテーション
- 当日募集ワークショップ
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF理事の何でも相談所

(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2011(通算 25 回)

- テーマ：「これからの日本の復興に環境教育がどう役割を果たすのか」
- 日時：2011年11月19日(土)～21日(月)
- 参加人数：188人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／経済産業省／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会1

- ・パネルディスカッション
- 「これからの日本の復興に環境教育がどう役割を果たすのか」

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座 ※
- ②企業・NPO・学校連携の環境教育を考える VOL.2
- ③質的データ分析(QDA)という手法を学ぶ
- ④農的暮らしの自然学校
- ⑤森林療法にできること～森林セルフケアの可能性
- ⑥里山応援ネットワークを作ろう! ワークショップ
- ⑦0から仕事を作る～体験からチームを作る～
- ⑧『ワールドカフェ～自分発! 未来をかける価値観考～』
- ⑨修験道×環境教育～音色と歩き、体で精神性を感じる～
- ⑩震災救援組織(RQ市民災害救援センター)の作り方 ※
- ⑪ESD×CSR：サステナビリティ教育指針を体感! ※
- ⑫やったらできた! エネルギー系企業と弱小NPOのコラボ
- ⑬環境と文化・歴史・科学etc.の複合…「旧暦」入門
- ⑭自然感を耕す 自分と里地里山里水が元気になるワーク
- ⑮生物多様性まんだらカードゲーム 今年小学生版
- ⑯PLT, WILD, WETの日本での可能性を考えよう
- ⑰日本的、アジア的自然観を整理し、環境教育に活かす
- ⑱原発と環境教育～思ったことを話すことからはじめよう～
- ⑲狩猟×環境教育～森と野生動物と人のつきあい方～

※の印は主催者企画ワークショップ

【早朝WS】

- ①ゼロから始める火おこし術
- ②森林療法のプログラム体験～樹林気功と運動療法
- ③冬鳥と出会って、いのちを感じる
- ④キープ協会「アニマルバスウェイ」見学ツアー

- 環境教育プレゼンテーション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介

(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2012(通算 26 回)

- テーマ：「アジアの一員として、日本が今できること ～think global actlocal:『リオ+20』の年に考える～」
- 日時：2012年11月17日(土)～19日(月)
- 参加人数：177人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部

- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

- 「アジアの一員として、日本が今できること
- ～think global actlocal:『リオ+20』の年に考える～」
- ・基調講演「リオ+20の概要と、NGOの成果と課題」
- ・パネルディスカッション

「これからの日本の復興に環境教育がどういう役割を果たすのか」

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育入門講座
- ②自然学校人事担当養成講座～ほしい人材を育てよう～
- ③実施無し
- ④プーさんの森をデザインしよう！
- ⑤考えよう！伝えよう！森の“いのち”の知恵と力
- ⑥食から考える価値と暮らし
- ⑦ねん土をつかって、超ミニアースオープンをつくろう！
- ⑧農村と若者～そと者、若者による農山村の活性化～
- ⑨一次産業と社会貢献事業～金の切れ目が本気のはじまり
- ⑩「住み開き」を考えよう～身近に環境教育の場をつくる～
- ⑪「都市と自然の融合～両方見て、初めて見える環境教育！～」
- ⑫木質バイオマスを首相官邸へ～さらなる普及をめざして～①
- ⑬地域に根ざすということについてPBEへの招待
- ⑭田舎で生きる！ライフモデル作りワークショップ
- ⑮バトニアから学ぶ！持続可能な働き方と歩み方
- ⑯環境教育×植物療法～自然の恵みをヒトの力に～
- ⑰都市型環境教育 小学生向け紫外線プログラム体験
- ⑱文学から見た農的暮らしの可能性
- ⑲理想のシゴト？自然学校職員の本音と未来像
- ⑳身近な環境の総合的“明察”…内なる“マイ厩”を作ろう！
- ㉑農がXを助け、Xが農を助ける～半農半NPOでいこう～
- ㉒エコとエネのつながりを考えるカードゲームワークショップ
- ㉓森で教える国語・算数・理科・社会をつくっちゃおう！
- ㉔木質バイオマスを首相官邸へ～さらなる普及へ向けて～②

【早朝WS】

- ①科学と環境教育プログラム「静岡のなりたち」
- ②みどりともだちに！泥んこ遊び de 苔玉作り
- ③キープ協会「アニマルパスウェイ」見学ツアー

■環境教育プレゼンテーション

■当日募集ワークショップ

■人と組織の紹介

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2013(通算 27回)】

- 日時：2013年11月16日(土)～18日(月)
- 参加人数：204人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

- ・キーンノートスピーチ
- ・ワールドカフェ方式ディスカッション
- ・「環境教育に関わる諸団体から最新のメッセージを聞く」

【ワークショップ】

- ①自分の仕事を創る技術～IPの新しい可能性を考える～
- ②地域に根ざした環境教育 Place-Based-Education
- ③モミでご飯をたこう！～空き缶で「ミニかまど」づくり～
- ④宇宙船地球号体感インプリ！20世紀天文少年の誘い
- ⑤環境教育をカードゲームで考えてみよう～エネルギー編
- ⑥「原発事故のはなし3」デモとディスカッション
- ⑦質的データ分析(QDA)を体験してみよう
- ⑧企業とNGOの幸せな関係をながく続ける秘訣
- ⑨楽器を使ったプレゼンテーションを考えよう
- ⑩知っておきたい基礎知識～命・自然・地球・宇宙～
- ⑪日常の現場や暮らしに持ち帰る“運営と振り返り”
- ⑫持続可能な地域のための必要なしくみを考えよう
- ⑬継承したい日本の自然観～自然体という生き方～
- ⑭事例から学ぶESD(持続発展教育)の基本と実践
- ⑮ゲームで生態系を学ぼう！
- ⑯ウィルダネスファーストエイド～仲間を守るその技術～
- ⑰パフォーマンス評価の世界の潮流
- ⑱15年のノウハウ伝授！身近な素材でプログラムづくり
- ⑲小学校で環境教育やりたい人 集まれ！
- ⑳伝える技術KP法(紙芝居プレゼンテーション法)

【早朝WS】

- ①アイソン 慧星いつ観るか…清里、澄んだ空…今でしょ！
- ②ロシアからの旅人に会おう
- ③清里トレラン

【特別企画】

- ・アクアマリンふくしま移動水族館

【自主企画】

- ・プレゼンテーションで世界を変える！～TEDの世界～
- ・野外フェスは環境教育のツールになりえるか！？
- ・スマホ、テレビゲームの年齢制限でも考えてみよう
- ・JEEF理事バンド(バンド演奏)

■10分プレゼンテーション

■当日募集ワークショップ

■人と組織の紹介

【(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2014(通算 28回)】

- テーマ：「ESDの10年後の環境教育」
- 日時：2014年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：186人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部

- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

- ・キーンノートスピーチ
- ・基調報告 テーマ【ESD ユネスコ世界会議を終えて】
- ・ワールドカフェ方式ディスカッション【私とESD】

【ワークショップ】

- ①自然の中で遊ぶゲーム
- ②再び、地域に根ざした環境教育(PBE)について
- ③企業のESDのあり姿/あるべき姿を考えよう
- ④「協働」による里山再生の取り組み～〇〇×〇〇～
- ⑤エネルギー大臣になろう～ゲームで考える環境教育～
- ⑥ウィルダネスファーストエイド～仲間を守るその技術
- ⑦楽器を使ってプレゼンテーションしよう
- ⑧語ろう！考えよう！「企業のESD宣言」
- ⑨電子絵本を活用したESDプログラムを考える
- ⑩国連の新目標(SDGs)は環境教育普及につながる？
- ⑪体感、出航！宇宙船地球丸「苦手は天文」ぶっ飛ばせ
- ⑫“自然学校と林業”環境教育は暮らし産業に直結せよ！
- ⑬イノベーション創発型ワークショップのデザインを学ぶ
- ⑭清泉寮で自然音楽野外フェスティバルをつくる
- ⑮教育と刃物～ナイフを使う喜びを子どもたちに！
- ⑯シニア自然大学を作ろう
- ⑰自己肯定感を育むESD～これからの学びへの提案～
- ⑱GEMSの新しい使い方～森の中で 図書館の片隅で～
- ⑲KP法(紙芝居プレゼンテーション法)の工夫共有ワークショップ
- ⑳小学校で環境教育をやるよ！Part II

【早朝WS】

- ①朝の楽しい修行：ヨガと勤行
- ②環境教育と持続可能な開発の日米比較研究中間報告②
- ③エンカウンターグループ「今ここ」
- ④清里朝散歩

■10分プレゼンテーション

■当日募集ワークショップ

■人と組織の紹介

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2015(通算 29回)】

- テーマ：「地域をつくる環境教育」
- 日時：2015年11月14日(土)～16日(月)
- 参加人数：174人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 特別協力：環境省グッドライフアワード

■全体会

- ・キーンノートスピーチ「農的生活学校の学び方」
- ・ワールドカフェ方式ディスカッション「地域をつくる環境教育」
- ・「世代を超えて一緒に〇〇おう！」

【ワークショップ】

- ①広範囲に拡散した外来種の市民による調査と駆除対策
- ②獣害問題は、環境教育の対象になるのか。
- ③エネルギー大臣になろう！～ゲームで考える環境教育～
- ④ご当地GEMS～地域に根ざしたアクティブ・ラーニング～
- ⑤自然学校の30年を振り返りこれからの20年を考える
- ⑥環境教育の基礎…自然とは？命とは？
- ⑦「PBE：地域に根ざした学び」を考える
- ⑧「若者が地域で生きる・暮らす」を考える3時間
- ⑨里山ってなんだろう～その意味、価値を考える～
- ⑩野生生物と共生する環境地域づくりの進め方
- ⑪持続可能な未来のための科学技術とのつきあい方
- ⑫サステイナブル・ツーリズム国際基準を自然学校に！
- ⑬体感、出航！宇宙船地球丸。「天文は苦手」吹っ飛ばせ
- ⑭探そう磨こう！環境教育の魅力を伝えるコトバ
- ⑮野外フェスに環境教育を広げる『NATCU FES』
- ⑯地域が蘇る「森林資源を循環させる経済」を考える
- ⑰廃校利用の自然学校の経営
- ⑱ピクニックのための自然体験型環境教育プログラム

【早朝WS】

- ①朝の楽しい修行：ヨガと瞑想と歌
- ②手づくりのみみ殻コンロ、ペール缶めかくどの実演！
- ③ロシアからの旅人と再会しよう～冬鳥との出会いを求めて～
- ④清里朝散歩

■10分プレゼンテーション

■当日募集ワークショップ

■人と組織の紹介

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2016(通算 30回)】

- テーマ：「環境教育の未来を考える！あなたの次の一歩は？」
- 日時：2016年11月5日(土)～7日(月)
- 参加人数：196人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

- ・スライドショー「これまでの環境教育をふりかえる」
- ・パネルディスカッション「日中韓スウェーデンの環境教育比較研究」
- ・全員参加型ディスカッション

【ワークショップ】

- ①持続可能な社会づくり、企業の役割とは
- ②持続可能な暮らしの日常を体験する「いつもの暮らし」
- ③『エディブル・スクールヤード』をはじめよう！
- ④環境教育業界×私たち、若手の関わり方
- ⑤祝30周年☆清里ミーティングにまつわるコピーを作る

- ⑥自然をフィールドとした父親参加型のわんぱく子育て
 - ⑦エネルギー大臣になろうワークショップ
 - ⑧清里ミーティング「30+30」
 - ⑨森の中でサイエンス～動物たちの生きる知恵
 - ⑩「環境」=「地球」を感じてみよう！天文のイロハ for 環境教育
 - ⑪CEPA って何の略？地域をつくる湿地教育を考える
 - ⑫森が薫る燻製づくり
 - ⑬一流を学ぶ・・・第一印象と名刺交換
 - ⑭「水の足跡」ースペース・ウォークを使ってー
 - ⑮環境・CSR 活動評価チェックリストを使ってみよう
 - ⑯海の森からの贈り物～海藻おしぼ～
 - ⑰告知・広報に活かす”伝わる”、”伝える”文章講座
 - ⑱環境教育と家族
 - ⑲アクティビティを再生する
 - ⑳野外での事故に備えよう！「野外・災害救急法」の体験
 - ㉑いま「公害教育」を考える
 - ㉒「いつもの暮らし」を環境教育プログラムに！
 - ㉓「自然から学ぶ場と人の全国フォーラム」中間検討会
 - ㉔SDGs でつなげる地域と活動ワークショップ
 - ㉕銀粘土で作る リーフモチーフの純銀アクセサリ
 - ㉖幻想は捨てよう！NPO と行政のミゾを埋める 80分
 - ㉗火を囲み、みんなで作る「居場所」づくり
 - ㉘マジックで環境教育に活用する
 - ㉙助けよう！特定外来生物駆除活動の輪！
 - ㉚持続可能な未来のための科学技術とのつきあい方 2
- 【早朝ワークショップ】
- ①ヨーガと瞑想
 - ②甲虫の玉虫でアクセサリを制作してみよう
 - ③冬鳥と出会い、地球を感じよう
 - ④清里朝散歩
- 10分プレゼンテーション
 - ポスターセッション
 - 当日募集ワークショップ
 - 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2017(通算 31回)

- テーマ：「組織・活動を変革する17の視点～SDGsでつくる私のアクション～」
 - 日時：2017年11月18日(土)～20日(月)
 - 参加人数：137人
 - 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
 - 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
 - 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
 - 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、日本環境教育学会、持続可能な開発のための教育推進会議
- 全体会
- ・パネルディスカッション「SDGsに向けて教育は何かできるか」
 - ・自分×SDGsで次のアクションを考える
 - ・全員参加型ディスカッション～SDGsでつくる私のアクション～
- ワークショップ
- 【対話型ワークショップ】
- ①フライング・ワイルドの体験とSDGsとの繋がり
 - ②SDGs×わたし
 - ③協同学習の手法で環境教育をスキルアップしよう！
 - ④環境思想を考える
 - ⑤生きものの魅力で心を動かしたい
 - ⑥森林療法×環境教育～癒しが持つSDGsへの可能性
 - ⑦つなげよう！自然体験型エコツアーとSDGs
 - ⑧CSRプログラム事例で学ぶ社会的インパクト評価
 - ⑨パートナーシップでつくる「キョオサ」SDGs企画
 - ⑩環境教育研究&実践から考えるSDGs
- 【体験型(E)・フレッシュパーソンズ(F) ワークショップ】
- ⑪持続可能な「ミライ」をつくる人材育成の在り方：F
 - ⑫森林療法～調和する自己の持続可能性：F
 - ⑬中止：野外活動を120%楽しくする図鑑の読み方・使い方：F
 - ⑭火を囲み、みんなで作る「居場所」づくり：E
 - ⑮KP法でSDGsを整理してみよう：E
 - ⑯17のSDGsで柔軟な頭を作るゲームを：E
 - ⑰アナログゲームで環境を学ぼう！：E
 - ⑱「教える」より「学びあう場」を創ろう！：E
 - ⑲中止：自然を使った深く自分と繋がる体験ワークショップ：F
 - ⑳「うんこ」から自然を見る～教材化の面白さと可能性：F
 - ㉑中止：環境ポータルサイト「BLUESHIP」の活用方法：F
 - ㉒自然をフィールドとした父親参加型のわんぱく子育て：E
 - ㉓既存のプログラムをSDGsナイズ大作戦！GEMS編：E
 - ㉔SDGsと森里川海、そしてライフスタイル：E
 - ㉕目からウロコ、環境教育のためのミニマム天文基礎講座：E
 - ㉖公害とSDGs JEEF・あおぞら財団の協働FW：E
 - ㉗一体感を生み出す魔法の技術！アイズブレイク三連発♪：E
 - ㉘音楽フェス×環境教育@清里 超実践体感ワークショップ
- 【早朝ワークショップ】
- ①森林療法プログラム体験～樹林気功とグラウンディング
 - ②ヨーガと瞑想
 - ③甲虫の玉虫でアクセサリを制作してみよう
 - ④マインドフルな自然体験
 - ⑤冬鳥と出会い、地球を感じよう
- ポスターセッション
 - 当日募集ワークショップ
 - 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2018(通算 32回)

- テーマ：「ESD + SDGs ～ 未来を変える教育を考える」
 - 日時：2018年11月16日(金)～18日(日)
 - 参加人数：146人
 - 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
 - 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
 - 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
 - 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD 活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会
- 全体会
- ・SDGs がもたらす共創の可能性
 - ・パートナーシップで未来を変える！
 - ・アイディアは地球を変える
- ワークショップ
- 【体験型ワークショップ・1】
- ①SDGs に果たす ESD の役割
 - ②自然観察で知る生物多様性、命のあり方、人という生物
 - ③学生版清里ミーティング実施に向けた作戦会議
 - ④棚田米を土鍋で炊いて、味わい、お米の魅力を探る
 - ⑤JOLA ～アウトドアで「未来のための人づくり」～
- 【対話型ワークショップ】
- ⑥SDGs for School 未来の教育デザイン
 - ⑦エコヴィレッジ、災害に強いオフグリッドの居場所作り
 - ⑧研修「設計」のススメ
 - ⑨公害の経験から考えるSDG s 達成に向けた課題
 - ⑩災害支援と自然学校の役割
 - ⑪美しい棚田を未来につなぐ11年の環境教育の実践
 - ⑫ESDによる地域創生の可能性
 - ⑬エコ・自然塾
 - ⑭野外フェス×環境教育の可能性をさぐる作戦会議
- 【体験型ワークショップ・2】
- ⑮フルスイングの発酵ワークショップ
 - ⑯読本「森里川海大好き！」を活かした環境教育へ
 - ⑰森カフェ GEMS マタギさんと算数-自然の恵み山御膳
 - ⑱歌の力、体感ワークショップ
 - ⑲UNCO ゲーム開発のためのβ版体験ワークショップ
 - ⑳教員向けエコ×エネ体験ツアーの手応えと可能性
 - ㉑森で元気に！キープの「森林療法」ちょこっと体験☆
 - ㉒ハラオチ納得！ジオガシキッチン教室
 - ㉓「地域を活かした教育力」
 - ㉔「九州・沖縄で暮らし続ける！」地域に根ざすSDGs
- 【早朝ワークショップ】
- ①ロシアからの旅人と再会しよう
 - ②ヨーガと瞑想
 - ③山珊瑚で根付を作ってみよう
 - ④清里朝散歩
- ポスターセッション
 - 当日募集ワークショップ
 - 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2019(通算 33回)

- テーマ：「正解がない問いと共に生きる時代の人づくり」
 - 日時：2019年11月15日(金)～17日(日)
 - 参加人数：120人
 - 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
 - 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
 - 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
 - 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD 活動支援センター、関東地方 ESD 活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会
- 全体会
- ・SDGs に捉われすぎいませんか？
 - ・Learn (主体的な学び) と Unlearn (学びほぐし)
- ワークショップ
- 【90分ワークショップ・1】
- ①社員を全員ファシリテーターに
 - ②インタープリテーションをより効果的にする指標作成プロジェクト
 - ③地球温暖化を逆転する100の方策ドローダウン紹介
 - ④全く新しいアイデアで地球を救う本気スーパー脳嵐
 - ⑤「静」のプログラムの可能性
- 【150分ワークショップ】
- ⑥スマホから考える世界・わたし・SDGs
 - ⑦カードゲーム“新”エネルギー大臣になろう！
 - ⑧わたしたちの地域、みんなでどうする？～各地の事例から学び合おう！～
 - ⑨野外フェス×環境教育の可能性をさぐる作戦会議
 - ⑩持続可能に海の資源を守るための取り組みを考える
 - ⑪身体感覚の気づきから持続可能な社会について考えよう
 - ⑫環境教育×中小企業！～パートナーシップで持続可能な事業をめざす～
 - ⑬エコロジカル・シンキング カードで発想しよう！
 - ⑭自然観察の基本、環境教育の基礎をおさえよう
- 【90分ワークショップ・2】
- ⑮見ることに頼りすぎているかもしれない私たちへ。
 - ⑯古今東西！環境教育ミーティング！
 - ⑰ライブ&ダイアログ：自然の摂理を歌おう！
 - ⑱ゲノム編集食品について問い合う
 - ⑲林業×チームビルディングの可能性は？
- 【早朝ワークショップ】
- ①美しい玉虫の甲羅でアクセサリを作ってみよう。
 - ②渡り鳥に出会い、季節や自然を感じよう！
 - ③清里朝散歩♪
 - ④ヨーガと瞑想
- ポスターセッション
 - 当日募集ワークショップ
 - 人と組織の紹介処

(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2020(通算 34 回)

- テーマ:「遊んで、笑って、世界を変える」
- 日時:2020年12月6日(日)~12日(土)
- 参加人数:303人
- 主催事務局:公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 会場:オンライン
- 後援:環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD活動支援センター
関東地方ESD活動支援センター、
持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会
- 全体会
 - ・全体会1「自然遊びで育つ“たくましさ”」
 - ・全体会2「世界の環境教育実践から学ぶ」
- ワークショップ
 - 1. インタープリテーション再入門
~インタープリターが伝えるコミュニケーションと探求の極意
 - 2. トヨタ山田とグリーンウッド辻が贈る!!
トヨタ白川郷自然学校×校長山田氏×環境教育×学生=素敵な未来?
 - 3. どうなの?どうする?「プラスチックごみ」ワークショップ
 - 4. 渡り鳥と出会い、自然を知り、文明を考える
 - 5. 地域に大学を!~地方創生に向けた教育改革
 - 6. オンラインでもハンズオン!GEMS入門編
 - 7. 大人だって絵本が好き!SDGsとつなげよう
 - 8. 地域のビジター体験を充実させるためのガイド
/インタープリターのコンピテンシーとは
 - 9. CSOラーニング卒業生のイマ
~NPO・NGOでのインターンを通じた人材育成
 - 10. 「複業」を始めてみよう
 - 11. コロナ時代の幕開けを語ろう~自然学校語り部屋
 - 12. 伝わるオンラインプレゼンテーション!
~デジタル環境のあたらしいあたりまえ
 - 13. 気候変動をさまざまな角度から見てみよう!
SDGs・環境教育・地方公共団体の観点から
 - 14. 『やまねミュージアム』オンラインツアーに挑戦!
~オンラインにおける展示施設の可能性を考える
 - 15. あつまれ!清里の森の小劇場
おうちからでも、森を楽しみたい人集まれ~!
 - 16. 環境教育×NVC~持続可能な未来を創る「対話」のちから
 - 17. グリーンスクール卒業生(日本人女性初)が語る「気候変動」と「環境教育」
 - 18. 馬との暮らし・自然の中で育つ、ちょっと気になる子ども達
~感覚統合×自然体験・ホースセラピー
 - 19. 「森」×「健康」~リトリートの場としての森の可能性を考える
 - 20. JICA 海外協力隊カフェ〜ベリーズ・ホンジュラス・キルギス編
 - 21. 東アジア地球市民村食堂
~食事の風景から探る私たちの自然観と共通性
 - 22. ユースと語ろう!学校×環境教育のこれから
 - 23. 自分を満たす暮らしとは?
自分だけのモバイルハウスをデザインしてみよう!
 - 24. SDGsにはこう取組むのがいいね!をみんなで考えよう。
 - 25. 地域に根ざした環境への取り組みとは
~インドネシア駐在歴約20年の矢田さんをお迎えます
 - 26. 美しい棚田を未来につなぐ14年の環境教育の実践、土鍋で棚田米も炊こう
 - 27. プラスチックさよなら大作戦~阿部ゼミ生に力を貸してください!!
 - 28. 【リレートーク】「読んでほしい」「知ってほしい」環境のこと
 - 29. 豊かな森を造る×脱炭素×地域活性化
 - 30. は・ず・む♪アイデア出しミーティング
~3Mのチームワークソリューションを学ぼう!
 - 31. 「エシカル・ツーリズム」の可能性 観光×「海ごみ」でまちづくり
 - 32. あなたが国の代表に!?なりきり国際環境会議!
 - 33. 海や自然と深くつながる。
化石燃料を使わないサステナブルモニターツアー報告
 - 34. コロナ禍から先頭を切った音楽フェス「ハイライフ八ヶ岳」
開催の決断と、その感染抑制の実際を赤裸々に伝え振り返る90分
 - 35. ベル×青年海外協力隊 環境教育隊員の活動ご紹介!
 - 36. 内側と外側から自分とつながる Forest タイム
- 10分プレゼンテーション
- その他のプログラム
 - 1. 情報交換会
 - 2. 理事×リジ×りじ?
 - 3. 長沢裕×辻英之 特別ワークショップ
 - 4. 市民のための環境公開講座&特別座談会
 - 5. プータンの朝 LIVE
 - 6. 自然学校 NIGHT
 - 7. ふりかえり会

(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2021(通算 35 回)

- テーマ:「遊んで、笑って、世界を変える」
- 日時:2021年12月5日(日)~11日(土)
- 参加人数:313人
- 主催事務局:公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 会場:オンライン
- 後援:環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、国立青少年教育振興機構、
ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター、
NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議、
一般社団法人日本環境教育学会
- 全体会
 - ・全体会1「2030まであと9年。環境・教育で何に取り組む?」
 - ・全体会2「共に生きる」を改めて考える~これからの生物多様性~
- ワークショップ
 - 1. 森好きが育つ場所白神山地~森のすごさと地域の課題と未来~
 - 2. アートの入り口~もっと教育に遊びゴコロを!~
 - 3. どうしたらいいの?「行動変容」実行へつなげるための方法を考えよう
 - 4. ポッドキャスト公開収録!環境教育ラジオ『私の本棚』
 - 5. 「保育と自然・環境教育」情報交換会

- 6. 未来の海を絵に描こう!~あなたが願うのはどんな海?~
 - 7. 自然学校スタッフの日常のスキルは、被災地支援のコーディネーターに役に立つ
 - 8. ミニチュアお節のペーパークラフトで、『敬い』と多様性を考えよう
 - 9. 古い×SDGs~地球と僕らの未来を占う
 - 10. 大人だって絵本が好き!~おもしろそう!そうなんだ!を絵本と共に~
 - 11. 子どもたちに「ライフジャケット」を!~思いはただ1つ...子どもたちの命を守る
こと~
 - 12. いま実現したい「LIFESHIFT」の生き方はたらき方
 - 13. 地域や社会の課題をSDGsで整理して考えてみよう。
 - 14. 地域の宝をどう磨く?~「そこならではの価値に光をあてる~インタープリター奮闘
中!~」
 - 15. 地球と仲良く暮らすための4つの鍵(KEYS)!?SDGsウォッシュで終わらない
環境教育を考えよう~環境教育のオルタナティブ「Earth Education(地球教育)」の
モデル・プログラム「EARTHKEEPERS」の試みを通して~
 - 16. こども達が自分の力を発揮できる環境をつくらう!~ヘンテコな世界観のワーク
ショップの事例から~
 - 17. 自然は自分の中にある~身体の資源、使えますか?~
 - 18. 八ヶ岳自然ふれあいセンター館内オンラインツアー&ビジターセンター展示・教材
情報交換会
 - 19. 服・ファッションからサステナビリティを考えるワークショップ
 - 20. 東京港野鳥公園で「渡り鳥と出会い、自然を知り、文明を考える」野鳥観察
 - 21. 野外フェス×環境教育~ハイライフ八ヶ岳の可能性を探る作戦会議~
 - 22. ねんどをこねて未来を変える!
 - 23. 気候変動を自分事化して考えるために
 - 24. 企業との協業を考えるゆるっとカフェ~企業と環境とサステナビリティと~
 - 25. 学びの役割再考~社会変容につながる全体地図を考えるキックオフ
 - 26. レジ袋の有料化って実際どうなの?あなたの考えを教えてください!
 - 27. みちのく自然学校カフェ
 - 28. みんなで「つくる」ソーシャルアクションガイドブックの制作と共有~超文化祭より
 - 29. デイリー シェアリングネイチャー(自然に気づくネイチャーゲーム)
 - 30. 虐待、貧困、不登校...様々な困難を抱える子どもたちへ、私たちは何が出来るのか?
~「子どもの課題×自然・野外」作戦会議
 - 31. 全部見せます!答えます!YouTubeチャンネル・You虫部のトライ&エラー
 - 32. 自然学校を立ち上げるときのポイントと連携のあり方考える
 - 33. 小学生から始める 地球のけんりせんげん~ゴミに命を吹き込もう~
 - 34. 大変だけれど楽しい本づくり
 - 35. 自然学校が行う学童保育の紹介
 - 36. 仕事×家庭×自然学校若手経営者のワークバランスを考える
 - 37. 教育について考えよう
 - 38. CSOラーニング卒業生のイマ~NPO・NGOでのインターンを通じた人材育成~
 - 39. 『飛び出す江戸の町並み図録』ペーパークラフトで、RRRDRと資源、文化の多様性
を考えよう
- 10分プレゼンテーション
- その他のプログラム
 - 1. 情報交換会
 - 2. トークショー1「長距離自然歩道を歩こう!」
 - 3. トークショー2「捨てない暮らしとレトロノバージョン」
 - 4. 市民のための環境公開講座
 - 5. 自然学校ナイト
 - 6. 自然学校オンラインツアー

(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2022(通算 36 回)

- テーマ:「全国の環境教育者と出会う!つながる!」
- 日時:2022年12月9日(金)~11日(日)
- 参加人数:297人
- 主催事務局:公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 会場:9日~10日 Zoom(オンライン開催)
11日 大妻女子大学千代田キャンパス(対面開催)※Zoomでも配信
- 後援:環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、独立行政法人 国立青少年教育振興機構、
ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター、
一般社団法人日本環境教育学会、
特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)
- 基調講演
 - ・空や雲を楽しみながら、地球の将来を考えよう
- トークセッション
 - ・トークセッション1「環境教育×STEAM部会 成果報告会」
 - ・トークセッション2「誰ひとり取り残さない環境教育を考える」
- ワークショップ
 - 1. 子どもの可能性を伸ばす学校教育
 - 2. サステナブルな観光地域への歩みをすすめていくには?~『サステナブルな未来へ
~人と自然の出会いの場づくり 親子で挑戦!~』報告を糸口へ~
 - 3. 生物多様性ミライ会議~わかめとの環境保全をつなぐには~
 - 4. 心地よいオンライン空間をつくるコツ
 - 5. 「世界がもし100人の村だったら」から話し・考えるSDGs
 - 6. 渡り鳥に気づき、自然を知り、文明を考える。
 - 7. 中国の皆さんとIP4コマまんがが作って来た!日本の皆さんも作ってみよう♪
(事例紹介&作成ワークショップ)
 - 8. いのちをつなぐ~国産ジビエの取り組み
 - 9. 遊びで育つ放課後の時間!自然学校が行う学童保育の紹介!
 - 10. 美しい棚田を未来につなぐ16年の環境教育の実践、土鍋で棚田米も炊こう~出版社
からの「棚田くんが行く」の秘話と地に足のついた生き方を棚田と体から考えよう!
 - 11. 見えない世界を見てみよう!双眼鏡の世界「Seeing beyond」
 - 12. 新しい感性で環境問題に挑む
 - 13. VRと、「おせち」「江戸の町並み」「大っきな鏡餅のおきあがりこぼし」などのペー
パークラフトとで、自然への敬いや異文化理解、資源・サーキュラー・エコノミー
(CircularEconomy)・RRRDRを考えよう
 - 14. 自然や馬の力に頼ったインクルーシブな場づくりを考える~ホースセラピーの現場を
ヒントに差別のない社会をつくる
 - 15. クリニカルアートへようこそ「いろいろな線と色で遊ぼう」
 - 16. 体験の質を高める~“ホンモノ”とは何か?
 - 17. ポストSDGsを見すえて、組織が組んで事業化を考える作戦会議
 - 18. 「学びの役割」再考・研究部会~私達は社会を変える環境教育が出来ているか?
 - 19. 自然体験・環境教育のフェスティバル「清里オーガニックキャンプ2023」作戦会議
- JEEF設立30周年記念講演会

- ・対談「自然と子どもの関係性～成長に必要な子どもの体験～」

(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2023(通算 37 回)

- テーマ：「これからの日本型環境教育の提案～2030 ネイチャーポジティブ～」
- 日時：2023 年 12 月 1 日（金）～3 日（日）
- 会場：公益財団法人キープ協会 清泉寮、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 参加人数：96 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 後援：環境省、2030 生物多様性枠組実現日本会議、文部科学省、林野庁、山梨県、
独立行政法人国立青少年教育振興機構、ESD 活動支援センター、
関東地方 ESD 活動支援センター、NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議、
一般社団法人日本環境教育学会

■全体会

- 1：人々が生き、自然を守る「ネイチャーポジティブ」が目指す世界
- 2：連携が生むシナジー 自然資本を活用する

■ワークショップ

1. 「生物多様性×自然学校」を考える
2. 第一回おうち自然学校全国フォーラム！
3. 竹を使って手作りまきすを作ろう♪
4. 知っておきたい生物多様性の基礎、基本
5. 学校教育＋社会教育＝持続可能な社会の創り手となる時間！
6. 隠れて見えないインパクト 気候変動をとめるキーワードを暮らしから探そう
7. ～インタープリターズガイドブック出版記念～「インタープリテーション」が広がる可能性
8. 体験から始めるネイチャーポジティブ～子どもたちが概念を掴みやすくなる工夫～
9. ウェルビーイングと SDGs 二つ並べて考えてみよう
10. 見て☆描いて☆楽しむ☆ネイチャージャーナリング
11. ネイチャーポジティブ x システムデザイン めぐるがみえる南三陸町の適用可能性について

【早朝ワークショップ】

1. 清里朝さんぽ
2. 渡り鳥に出会おう！
3. 馬の暮らし型の環境教育～ホースセラピーと発達凸凹の子どもたち

【清里満喫オプションツアー】

- ・牧場見学コース
- ・ヤマネミュージアム見学コース

■ポスターセッション

- 人と組織の紹介処（コンシェルジュデスク）
- リクルートコーナー

(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2024(通算 38 回)

- テーマ：「共感されるストーリーのつくりかた」
- 日時：2024 年 12 月 6 日（金）～8 日（日）
- 会場：公益財団法人キープ協会 清泉寮、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 参加人数：98 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、独立行政法人国立青少年教育振興機構、
ESD 活動支援センター（全国）、関東地方 ESD 活動支援センター、
2030 生物多様性枠組実現日本会議、
特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)、
一般社団法人日本環境教育学会

■全体会

- 1：自然体験のものさし～変化を測る、伝える～
- 2：この瞬間を共有したい！～センス・オブ・ワンダーを伝える言葉

■ワークショップ

1. あなたの発見おしえてください in 清里
2. 生成 AI が環境教育のあり方を変える
3. 絵が苦手でも平気♪観察力と表現力をはぐくむネイチャージャーナリング体験 WS
4. パッケージ・プログラムを体験しよう！
5. 自然体験が地域愛着に及ぼす影響 ～青少年教育施設×学校×大学 三者連携の意義について考えよう～
6. ネイティブ・アメリカンの知恵に学ぶ
7. 知っておきたい生物多様性の基礎、基本
8. 竹の利活用を考える～竹クリスマス飾り作り～
9. 「行く自然学校」から「やる自然学校」へ～「おうち自然学校だ！」出版記念ワークショップ
10. 海の生きものとプラスチックごみ
11. 自分と未来とつなぐワークショップ

【早朝ワークショップ】

1. 清里朝さんぽ
2. 渡り鳥に出会おう！
3. あり方の学び方を探求する～馬と子供の現場を手掛かりに

【清里満喫オプションツアー】

- ・牧場見学コース
- ・ヤマネミュージアム見学コース

■ポスターセッション

- 人と組織の紹介処（コンシェルジュデスク）
- リクルートコーナー

清里ミーティング 2025 報告書

発行者：公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 1 階

TEL : 03-5834-2897 FAX : 03-5834-2898

URL : <https://www.jeef.or.jp/>